情、みんなこれ事情、どうにもかうにもならん事情、年限はよほどぜん〳〵よりさとしかけ、又刻限にもさとしかけ、一寸十のものなら三分通りしか理になつてない、そこで内々事情、屋敷の中といふ、あちらから黒ぼこり、こちらから黒ぼこり、年限やう〳〵一寸事情、はらふて〳〵どうでもはらひたらん、まだもう一だんはらひたらん、そこで刻限一寸さとさにやならん、身上から尋ねかけたら、二三分事情になりて、ちよい〳〵わかりかけ、身上尋ね、ながらえて不足なりたる、一寸よからうといふ、また一寸わらひかけたらきぶんがよいといふやうになる、心得のためなにか證據になる事情がなくばなろまい、神の自由用してみせても、その時丈けはおぼえてゐる、なれど一日たつ、三十日たてばころつとわすれてしまふ、大ぼこり〳〵、さげだす、いなひだす、つもる、あとむいても、どつこにも橋がない、神がのぞいてしもたらぜひがないで、どれだけちりをためておいても、はらふてしもたら、もう一ぺんどうしやうとおもても行こまい、すつきりあらひきり、ほんにあれでこそ、大和の國にめづらしぢばや、鏡屋敷や、元人間始めた屋敷

やさうなと、一寸きくやうなもの、まあ一時の處、よういでいかん、ほこりありては大風大雨でふきながされてしまふも同じ事、そこでさとした處が、理がたゝんやない、たてんのや、たてんからほこりのだいとなる、これからしんたんの理をさとす、つとめでるものはよんではなし、是迄大きほこりの中にゐたによつて、ちいさいほこりはなんでもない、今迄は帳けしたやうにしてやる、一人二人まだとくしんでけん、くはしいさとしたらわかる、いはゞいはん、席を一寸やすまして赤きをきせて、赤きにのりうつり、將來の事情、理の始めかけ、あとへはかへらん、赤きをきせてさとすから、一同は一寸席をひかす。

つゞいて赤きを召して御指圖

さあ〳〵〳〵〳〵まつたまつた〳〵〳〵、さあ〳〵まつた、まつたで〳〵、やう〳〵けふの日〳〵、やれまちかねた〳〵、年限の事情かぞへてみよ〳〵、事情は赤きをきて尋ね、事情年限かぞへてみよ、何年いぜん〳〵、やう〳〵年限はたつた、赤きをきて尋ねてくれた時、どういふはなしがあつたか、どういふうつしがあつた

か、ぜひにぜひそれより年限のあひだどうしようかかうしようか、もう一日もならん、どうもならん、どうもみすてる事はできず、年限の間〳〵、もうや〳〵、としがあけたら、秋がしもたらといふ、ことしのあきであるか、ながい間はなしをきいて、ほんにとおもやこそ、どうでもならんからはこびきり、ながい間つれてとほり、よぎなく事情から年限かぞへてみれば、さつそくわかるやろ、是まで一寸ほつてはおけずなあとおもふから、一寸ほそみち世界のみちとほしてある處、年限ながい間、さいしよみなそれ〳〵よつてどうよかうようとりかゝりた、年限よほどたつる、まあぼつ〳〵はなしするから、ゆつくり筆をとりて、話しの中に尋ねかやす事あれば、尋ねかやすがよい、是から十分さとしかける、どういふ事とおもふ、年限の間さいしよはさうではなかつた、みんななかよくして同じ一つ、日々の處うれしいくらす、うれしいくらせば神もうれしい、年限の中、西を向ふか、東を向ふか、南を向ふか、北を向ふか、千筋の道ができて、どの道とほりてもさぐりても道がわからん、心がわるい〳〵、きがあはん、あはんやない、道の理からきゝわけ〳〵、

長い間つもりつもりた大ほこり〳〵、ほこりはらはにやならん、あと〳〵小ぼこり、これもつもりたらどうもならん、世界かはいさうでならん、道を道といふ、恩を恩といふ心あればこそ、けふの日、よう聞分け、道は千道の中によい道ばかりならよい、なれどふみにくい道、またがつた道、とほりにくい道になつたら元のりゆづうしなうてしまふ、そこで刻限〳〵といふてしらすなら、刻限もちひる理もあれば、もちひん理もある、もちひた處が、まだ〳〵たらん、するにもちひんからすつきりないやうなもの、一時みなよう聞分けてくれ、此道なみたいていのみちでなかつた、今のみちしんたんむつかしい處のみち、わからんやうになりてしまふ、わからんやうになるからほこりつもるのや、一列兄弟の理はしりてゐるやろ、一屋敷の中、だん〳〵はやくの理をきゝわけ、よういならん兄弟の中の兄弟の理である、その兄弟の理でありながら、口にださず心にもつて、この事情すつきりあらひきつてしまはにやならん、わからず〳〵の理は、神がとりけして帳けしをする、是からどんな事あらうとも眞實さへあれば、神がひきうける〳〵、自由用の理はけつこうと

おもひながら、自由用の理がわからん、たれにもかれにもねたみもうけず、そねみもうけず、是から道をはじめてやる、こゝろにほこりなくば、みにせつなみもない、是こゝろえてくれたらきれいなもの、とほい處からたま〳〵でゝくれば、いひたい事があつてもいはせん、こんどのまはりといふ、此心の理はどつこへもいかせん、みな日々心の理にこもるといふ、何派何派彼のはかといふてわけてゐる、一寸にはそれでよいやうなものなれど、どしこんでしまへといふのやない、是迄はこびきたる中、いく名何人ある、高いひくいの理はあれど、何事するもはなしあひ、つたへあひが神ののぞみや、十人なら十人、下は下の理がある、上は上の理を一つの心にむすんでしまふ、おら氣があはんといふ事はいふたらよい、けつこうとおもへば、おれはどうやといへようまい、あんなことゝいふはみてゐられん、みぐるしいてならん、きれいなものなら、いつ〳〵までもたのしんでゐるやらう、めん〳〵心得てくれ、もうこれいつもかはらん、晴天この理よういやない、どちらへ行かうとおもへば自由用、是迄の處はすつきりさらへて帳けしする、これだけ聞いたらわかる

やろ、何人の中に話しすれば、まちがひはあらうまい、こくげんといふた處が、きいたものはそれでよい、なれどなんにもならん刻限ならする迄のもの、どうなりとして國々だん〳〵さかえさし、あちらもちから、こちらもちから、ようきゝわけ、ほこりだらけちりだらけではたれがくるものか、よう聞分け、大ぼこり〳〵、大ぼこり掃ふた、小ほこりはまだどうもならぬ、すつきりすればみな一つの心にをさまるやらう、日々の處はいふまでやない、萬事の處、人々何名の中一つの理をきゝわけたらなにかの事も、あれとこれと、これとあれとが、これがにごりのだいである、年限のかるきもあれば、おもきもなるものもあれば、ならんものもある、又でけるものもあればでけんものもある、おなじ心とみて、何事するもいひにくい事もある、こらいひにくいからといふて、ほつておいてはほこりになる、小ぼこりが大ぼこりとなる、處々へでこしてゐるものはどんならん、ゐるだけのものかうしてもろたらみわけて、それからほどこしてくれにやならん、年限ながいものも、みぢかいものもある、ながければながいだけ、みぢかければみぢかいだ

け、あたまつみそろへてある、ようきゝわけ〳〵、互にゑんりよはいらん、ゑんりよはついしようなる、ついしようはうそになる、うそについしようは大ぼこりのだい、此理さへきゝわけるなら、日々ふき掃ふやうなもの、これきゝわけ、さあ〳〵一寸席をひかすによつて、今晩は幾しきりになるやらわからん。

つゞいて

さあ〳〵話しかける〳〵、一席〳〵番をうて、番をうたにやわからん、日々の話しからでかけたによつて、日々のはなしにかゝる、むつかしい事は一つもいはせんで、しよいやうにしてやる、内々みんな一つの心であつたら、どつからきても、たれにきいても同じ事、これが鏡屋敷のだいといふ、ちがふやうな事ではどうもならん、おらかうきいた、おまへのきいたのと、わしのきいたのとはちがふ、そんな事ではどんならん、これから一つにつないでしまふ、どこからきいてもおなじ事、これよりかたいつよい事はない、ちがふ事や、きかん事としてはどんならん、をさまる處をさまらんといふは、まち〳〵のはなしきゝこむからをさまらん、日々でてくるものは、幾名何人あるやらわからん、一々さとす處、みなかきだせ、十人ならば十人あるだけ尋ねるから、おまへはどういふてゐる、おらかういふてゐる、おなじ事情なら、どこへもちていんでもおなじ事、さき〳〵またがり〳〵の理をもつていぬからどんならん、日々が第一、そこでよいは〳〵といふてゐてはどんな事できるともわからん、日々さとす理きゝわけ、此道といふはじつがあるから、みなならほどといふて出てくるのやらう、これが一つ第一の理、これだけさとしたらわかるやろ、そこで何名の中のかはりあひ〳〵、よう聞きわけておけ〳〵、どうやかうやいはれず、これどうもむさくろしいてならん、けんねんかけられぬやう、かけぬやう、これだけさとしたら一つの心にならにやならん、是迄の處どうなりかうなり、是迄の事にして、これからあらひかへ、しつかりあらためくれにやならん。

又しばらくして

さあ〳〵又々話しかける、ずゐぶん〳〵きれいな〳〵、日々きれいな事はたれもすく、くどい〳〵はなしせにやわからん、何名何人の中、萬事に一つの理がかける、

をさまりた心生涯の理をさめるなら十分の理、なにもいふ事はない、今迄はそもそもであつて、みにくうて〳〵どうもならなんだ、年限をまちかねた、秋の大祭や、春の大祭や、まちかねた〳〵、もどる子供のしんじつありやこそ、なに事もなくをさまりてある、これはたらきあるかないか、しやんしてみよ、かはいさうに〳〵どういふもので、雨がふる風がふくとおもふやろ、ようしやんしてみよ、中にきれいなものはたれもすく、神もすく、神もすくやうな心なら、こりやさはりやどうやとはないもの、これだけはやくさとしたら、十分さとしあれど、ほんのそのばだけきいただけではどんならん、これが第一どんならん、是よりしんを定めてくれるなら、なにもこはきあぶなきはない、是からよう改めてくれ、なにかの事もこれから、何人〳〵あつかひ、事務所、詰所、何人あたまかずあろが、笑ふてくらせば、なんにもねたみうらみは一つもあらせんで、よようきゝわけ。

しばらくして

さあ〳〵また〳〵一つ事情、始めかける、どういふ事情だしかけるなら、ぜん〳〵

一つ事情、萬事の處〳〵、是迄の處〳〵、まあ一寸これ長らくの處、どうやかうやといふて、これだけやすむどれだけやすむ〳〵事情、是から始めかけ、萬事の中これとこれとがかはれど、理がかはらねば同じ事、人にあらためてかうといふ、そらならん〳〵、さあわかりくるその日まつた、又のち一つ事情、さあ〳〵三つ〳〵鳴物〳〵、此事情まあ一寸わからんから理をだした、わかりかけたらわかりくる、さいしよはふわ〳〵したもの、たれがどうしようかれがかうしようとおもてもでけん、たれにささう、かれにささうとおもてもでけなんだ、人がたれ〳〵一寸はなしたら、さつそく理があつまつた、この三つの理わからんから、つとめ〳〵黒き〳〵、あちらへもわたし、こちらへもわたし、よぎなく理にさそはれ、さしづがありてすればいきにくい事しかさしづせん、これ一つよう聞分けにやならん、なりもの三人、一人はひかへ、しらずしてこれだけかうして、こらほつておけといふ、なんにもわからん、うもれてしもたる、神の理がうもれて理があるかないか、此理からわける、しん柱〳〵、今は家内といふやろ、けふはでやうとおもへばでたがよい、や

すもとおもへばやすんでもよい、あとは人衆といふ、ふせこみと人衆といふ、此理がわからねばなんにもわからん、やうきあそび〳〵、ようきゝわけてくれ、ひかへ一人、表裏三人ふやす、あと〳〵事情は、てがはり事情事情。

押して、三人ふやす事情の願

さあ〳〵てがはり、今日の日手かはりといへば、その日〳〵しろしを定めるがよい。

押して、その日〳〵の印を定めるといふはどういふ事であります哉

さあ〳〵しん柱にたれそれかれそれといへば、又人といふ、しん柱にづうとしるしをこしらへてもろて、その日〳〵しるし定めてもらへ〳〵。

押して、裏表とはどういふ事であります哉

しばらくして

さあ〳〵ひかへのひかへとなるから、うらとおもてとになる、きゝわけ〳〵。

さあ〳〵今晩のこくげんは、何ようあるとも今晩からもちひにやならん、せんこく一つの理にさとしたる、たれがどういふ、かれがかういふた、人々一つにかいてあつめて、しんばしらへもちて行て、これはよい、これはどうと、それからかうなると、席に尋ねて一つの理に治めるといふ。

明治三十一年五月十一日

芦津部内池田支教會舊四月一日鎭座祭二日開筵式願

梅谷たね身上願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆろしおかう〳〵。

明治三十一年五月十一日朝

さあ〳〵たづねる事情〳〵、さあ〳〵どちらへかゝるともわからん、どういふ理からはこびだすともわからん、尋ねる〳〵、尋ねにやわからうまい、だん〳〵さとしたる、身上から事情なんでもかでもをさめにやならうまい、ようきゝわけ、これまで〳〵みんなそれ〳〵常詰とは云はれよまい、それは出來やせん、なれど心は常詰、早くに聞取つて早くに定め〳〵、なんぼでも〳〵ひまがいる、ぜん〳〵からの

つゞき、先日よりのさしづ、幾度のさしづ、一日の日をもつて順序ひきならすと云ふ理もさとしたる、これからと云ふだんじ取りきめ、何かの處さしづの理をもつてとりきめと云ふたる、まだいかん、どうでもひまがいつてならん、よう聞分けにやならんで、これまでもんかたもなき處、ほのかにきいた理は、ぼつ〳〵一つ〳〵みてあらう、どうでもかうでもみにくい處はとりけしてしまはにやならん、なんぼさとしても、聞かしても、一寸あちらの理をとり、こちらの理をとり、思惑ひまがいる、とりきめた理はない、日々のさとしにもするやらう、いけん一人の事情は家内の理ともさとすやらう、助けにやならん、助からにやならんといふがたがひの理、よう聞分け、めん〳〵も助けやふとも思はず、それ〳〵も助からうともせず、それな事で日々常々取次ぐはなし、助け合ひの理にあたるか、さしづどほりの理を守れば早く〳〵だん〳〵とりきまり。

押して、明治二十九年九月に御指圖下されし事で御座ゐます哉と梅谷四郎兵衛より願

さあ〳〵その日きたるがよういならん理をよせてある、今の事情ほつておけるかおけんか、うち〳〵身上ようしやんしてみよ、身上はあんじる事いらん、身上助けるため一時心を定め、さあ〳〵みんな早く〳〵、さあ〳〵これからといふは、いと云ふたらい、ろと云ふたらろ、ぜん〳〵にもする、なれどかうやらうか、どうやらうか、勝手〳〵の理ばかりで一寸も治まりはない、月に一度一日の日をもつて月次祭ともいふ、かへる〳〵つもこりばかりあざやかなるはなし〳〵一つもあらせん、あすは月次祭といへばよいの日よりみないさんではたらかにやならん、時々さしづ、人々事情としてもさとしやふ事もなく、よろこばす事もなく、どうしてゐるのや、身のさはり〳〵と云ふ、早く助からにやならん、助けにやならん、これは教への理、よう聞分け、身上の事情より一つのさしづと云ふ、この理よりたがひにをさめかたときめかた運んでこそ助ける理、又助かる理ともいふ、これが一つよう聞取つてくれにやならんで、このてんはかうしましたと、どうしましたと一つの理きまりなくてはならうまい、この理ようきゝとらにやならん、理と云ふは、一つにをさめかけたらみなをさまる、あちらも一寸、こちら

も一寸はなしかけ、なかば〳〵のやうではどうしても、ものゝきまりつくか、こら
理や、そら理やと人間勝手の理、神の道になき理をひきだすから治まらん、きまら
ん、そんな事では教の理はとけやせん、日々どう云ふ理をもつて取次いでゐるか、
一手一つの心教へ、一つの理をもつてうれしい心を日々きかしてくれにやならん。

只今御聽かせ下されしは本部の事情にも理があるやうに承りましたが、梅谷の事に付役員一同から副會長の事も段々申され居り又緣談の事も御座いますが此處の處喜多治郎吉より押して願

さあ〳〵尋ねる處、ちうとうからはつと出たぶんさとしにくい、一からの理をさめてきまらにやならん、ぢは一つさしづ通りの理がをさまれば、かうさしてもらひたいと云へばよし〳〵と云ふ、今一時尋ねる事情は、いくへなんだんの理にあつまつてから一つの理、ぜん〳〵よりのさしづとりきめ一條さとし、なにもむつかしい事は云ふてない、めん〳〵むつかしい事こしらへるからむつかしなる、云ふとほりにしたら云ふ通りになる、よう聞分け、この道云ふとほりの理よりでけたのやらうが。

明治三十一年五月十一日

辻留菊身上願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、身上といふ身上一つ事情〳〵、第一事情〳〵、第一事情さあはなしかける〳〵、よくきゝわけにやわかりがたない、なんともおもはにやなんともない、おもへばおもふだけなけにやならん、さとしおかう、よう聞分け、身上一つ事情、一時事情〳〵、どういふ事をさとす、尋ねにやならうまい、めん〳〵からめんめんに聞分けにやならん、是までといふはみんなの中一つきいてゐて何と理がわからん〳〵、長い間年限〳〵、ながい間どういふ事、ようなくばしらん、年限たてばさきながくどういふ事、よう聞分け、みちの事あらためてもちひにやならん、又おや子といふおやの理から子なんとおもふか、これさとしおかう、どういふ事、人の事みならへ、人の事聞きならへ、神のをしへ一つ理、なるほどといふことばり〳〵人間心でさとす事できん、神のはなし神の理聞分け、つゞいて〳〵年限道の理もつてながいはなし、一つぜん〳〵事情こくげん、事情ひきだす、日々とりつ

ぎにさとして一つあつめてる處、ばんじとりつぎかゝりて事情、又小人事情こまる事情、どこへ事情かゝりてはじめかけるともわからん、又一つよぶか〳〵、ばんじさとさにやならん、あちらへかゝり、こちらへかゝり、さとす刻限事情さとすといふ、さあ〳〵いそぐ〳〵、身上はあんじる事いらん、じつさい〳〵一時をさめるは自由用、事情よぶか〳〵に筆とらして一時さとして、一時さだめにやならん。

押して、よぶかにたづねる事情願

さあ〳〵よぶか〳〵、さあ〳〵いそぐで〳〵、尋ねる處たづねかやす處、よぶか〳〵、筆は三人、筆は三人〳〵。

明治三十一年五月十二日夜

昨日辻留菊身上願ひより夜ぶかといふ御指圖に付願

さあ〳〵よぶかといふ事情さとしかけたる處、よぶかといふたづね事情から事情はじめかけた、あちらこちらどういふ事いひかける、たいて〳〵さとしたる、みんな心得てたづねてたか、どうよかうよ一つの心を治めてたづねてたか、それからはな

し、ぜん〳〵事情をもつて、早くばんじ一つの理はじめたる、事情よぶかよぶかの理をもつてたづねる、もうばんじの處あら〳〵二三日たつてある、どういふ理を定めてたづねるか、ぜん〳〵事情どういふ事であつたか。

前夜の御指圖より昨夜談示の上取りきめし事情願、第一は講社扱ひの事情は其扱ひの者不在中にても外の者扱ひの出來るやう一同へ話しておく事、又鳴物の事申上げし時御さとし

さあ〳〵一時とりきめした事情をかうといふ、あら〳〵かうであらうか、みな〳〵どうがよからう、かうがよからうか、協議してたづねる處、信徒萬事の處、みなまんぞくをあたへ、内々は一つの心、それはいふまで〳〵、第一の處、みなさとりぞこなうてゐるか、とりぞこなうてゐるか、ようきゝわけ、くれ〴〵の理にさとしたる〳〵、一つもそふてない〳〵、これではならん〳〵、かういふ事ではならん〳〵、そののちもう一つなりもの三人、一人はひかへ、どうしたらよからうか、師匠と云ふか、まあそこへ〳〵けいこさして始めかけた、もと〳〵よういやない、もんかたない處、どつから師匠出來て、手をつけたといふやない、一をおさへ、二三をおさ

へ、手をつけさした、このものみなぞんめいでゐるやろ、親やらうか、子やらうか、わからんからたづねる、親やら子やらわからんやうではどんならん、かなゝ事にはなしする、人間と〳〵はなしするやうにいふてきかそ、今はなあどうなりかうなり、かはりといへばでけるやうになりたる、その時の理がわからんやうではをさめられるかをさめられんかようきゝわけ、さうしたらすつきりわかる、でたものがぞんめいでゐるがな、ひかへがなくばならん、一人でられなんだら、そこで一人ひかへをこしらへる。

押して、ひかへは增井りんかとみへか

さあ〳〵尋ねる〳〵、さうしてたづねたらあざやかわかる、あかきをきせて小供だしたる、そら一寸にはわからん、わからんからわからんやうになる、人間が心でどうしようかうしやうといふたてでけやせん、元といふ、元があつてさき〴〵事情、世界といふ、これきゝわけ、おややら子やらわからんやうではならん、わからんからおほかたさうであつたやろかといふ、ようきゝわけ、小人はみな小供、ならん中から

らつとめた理はいさゝかやない、どつからさうしようといふものもなく、めいめい心だけつくした理やで。

お神樂に代り合ふて勤める願

かぐらの方はそれはどうともこれがかうとも一つもわかりてない、それまで人衆わかりてありやせん、かんじんいひかけた處がおよばす事でけん、一時の處せいて〳〵、一だいはざんねんくらうしてくらした、一時いひかけた處がとてもとてもおよばん、ほんのせかいどほりからはじめ、ふんばつて一人席といふて理をあらため、代理としてつとめさしてある、同じ人間やとおもてはならん、くちにふきだすねといふ神のさしづやで、ちかふやちかふといへ、おらふゝくやといふならふゝくといひならべ〳〵。

押して、神樂願

さあ〳〵きまつてないものは今一時きまりの理はとりにくい、どれとこれと人々やくわり、また〳〵一時おうぼふの理をもつて、けふはだれ、こんどはだれ、日々の

處一日の日をもつて、これまでどほりきた處をもつてつとめ、又一つなりもの親やつたやらうか、子やつたやらうか、しんからたれもかうといふものはない、しつてゐみたとていはんのや。

日々のあたへ配與方の願

さあ〳〵たづねる處〳〵、そらもうこれ、どんなものでもこんなものでも同じ事情ならたれがきいたてなるほどといふ、ちがふてありてはなるほどとはいへん、ちがふた事はどうもならん、ちかふからなんぼちがふやらしれん、どんな理になるともわからん、そこでさしづしてある、日々中にどうやかうや、いひやうでちがふによつて一つの理にあつめ〳〵、日々別席するさとしよでまちがふ、とりよう〳〵でまちがふ、もうなんぼきり長いはなししても、第一の理をきゝとる事でけん、こゝと〳〵をりめきりめの理をきかし、十人なら十人、一二三といふたらそれにちがはんやうにさとしてもらひたい、そこでぜん〳〵にもさとしたる、おれはかういふさとし、たれはかういふさとし、それ〳〵かきとつてしんばしらにだして、それより席にたづね、さうしたらどんなものがきいても、なるほどあれならなあ、あれでこそなあといふ、それよりけつこうはない、なんにもならんはなしした處がどうもならん、もんかたもない處からのこの道のけつこうといふ、元の理をさとさにやならん、これはいふまでや、さとしてもゐるやらう。

一すしばらくして

ながいはなしした處が、中にあいてくるものがでける、そんな席なんぼしたとてどうもならん、そこで九へんといふ、九へんさへをふたらよいといふだけではならん、おんなじ事九へんきかしたら、どんなものでもおぼえてしまふ、まち〳〵の理をさとしてはなんにもならん、もう一つといふたら、一二といふたら、二三といふたら、三きつちりしたものやろ、ちがはんといふやろ、むつかしい事いふのやないと、もうこれから人かずがおほくなる、そこでどんな日あるともわからん、何人あるともけふは今日、あさはあさ、人々の理をもつてかはり〳〵、これが一つの理、又中々一つの事情、あちらのものがようがあれば、こちらからかはる、又でこして

みるもの日がらかゝれば、又そのものにかはりといふ、すればこれよりけつこうはあらせん、さうさへすれば、どちらからもなんともいふものはない、さうして又一つ事情、ぜん〳〵一どさとしたるといふは、第一ねたむねたまれる、そねむそねまれる、この理ほどおそろしい理はない〳〵。

さあ〳〵ようきゝとりてはこんでくれたら、どんなはたらきするやしれん、そもさあ〳〵まあ〳〵、尋ねることよりも一ついそいでさとさんやならん、ことばつゞ〳〵の理ではどうもならん、又今日があすになり、ことしがらいねんになる、かうき、ことばならびともあとやさきになりてはならん、どうでもこの理にはこばにやしてとりつぎ、一日の日からろつくすつきり〳〵、これだけはなんでもかでもと、ならん、日々國々所〳〵心得事情、さあ〳〵何人ありだけのにんといふてはなしたとほつてくれにやならん、これまでの處むにしてはならん、むにさしてはならん、ようこれきゝとつてくれ〳〵。

押して、ねたみあひそねみあひはどういふ處を仰しやつて下されます哉

る、又もどりでゐるものもある、又常詰といふて、常詰にならんものもある、本部常詰といふ、めい〳〵一つ理を治めて、兩手にものはでけんやせん、そこでもどりたものでもあすんで居られん、本部といふ、ぢばといふ、そこで日々つめるものがつめあひといふ、どういふ事もかういふ事も、第一の理といふは日々の處、それ〳〵あたへといふ、はたらきの事情にあたへともいふ、これさへ治まれば何もいふ事はない、ねたみあひ〳〵、それみあひ〳〵、これがみぐるして〳〵ならん、そこで何人あるともつめ合一同本部員ともいふ、事務所、詰所、詰所、事務所、一つの事情、何人の中あちらこちらでこしてゐるものはどうもならん、そのものはこんどのまはり、その日に出合ふたものがはなしして、今日はかう〳〵、あゝけつこうやなあといふ、これが第一の理、それさへをさまりたら、にごりはすつきりないのや、これまで何どのはなし、ちよい〳〵にほひはなしではわからん、又してもわからん、この理にちがはんやう、今日の日はたのしんではたらけ、たのしんでくれ、これが世界からあたへやでといふてそだてるが、うへのつとめ、こ

れが第一神ののぞみや、いさゝかあたへ、ときゞ〳〵の理をもつてあたへてくれるやう。

しばらくして與へ分け日々する事やらうかと云ふ處へ

さあ〳〵日々にそんな事してゐらるものやない、月がかさなる、又ひまがかさなる、それゞ〳〵あたへひらき、その日といへばつめあひ役員、その時ゐるものだけは、なんでもかでもあつめ〳〵、ゐるものだけ心あはしてくれ、さうしたらやしきのにごりはすつきりのくで、ぢばにゐるもの、しもゞ〳〵いさゝか〳〵あたへ〳〵、あたへやからどんなものでもよろこばにやならん、これだけさとしたらどんなものでもわかる、わからねばとくしんするまでたづねかやせ〳〵、心にはまれば心にをさめてくれ、又々一つ事情このはなしきゝいれあつたら、日々とりつぎ席や、さづけといふ、人々かはり〳〵が神ののぞみ、これもあたへ、あともさきもないで、みんな同じ理、かるければかるいだけ、おもければおもひだけ、この理わかりたら、あちらをひき、こちらをひきずるやうでは神の理とはいへんで、しつかりきゝとれ

〳〵。

明治三十一年五月十二日

芦津部内日高布教所擔任岡本龍助の處花岡泰吉に變更願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はぜん〳〵に事情一つ一時事情かうといふ、事情はみなそれ〳〵みんな心といふ理のをさまりの理にゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月十二日

北部内沼隈布教所移轉願（同二十九番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵の事情一つ又一時もつて事情かうといふ、一つ事情それ〳〵みんな心といふ、あつまる理にてゆるしおかう〳〵。

擔任岡崎源藏の處中尾清義に變更願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵の事情はまあ一つ又一時もつてかうといふ、事情はみんなそれ〳〵心といふ理をさまらにやどんならん、さあをさまりの理にゆるしおかう〳〵。

同部内多加野布教所を出張所に引直し願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情〳〵、ぜん〳〵の事情一時もつて事情、さあ〳〵みな〳〵心といふ、みな〳〵もつてひきなほすといふは、十々の理である、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

同出張所移轉願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はぜん〳〵に事情一つ、さあ〳〵一時もつてみな〳〵心といふ、かうもしたらよかろといふ、みな〳〵の心にゆるしおかう〳〵。

同部内多可出張所鎭座祭閏三月二十七日斛筵式二十八日願（併て月次祭舊十九日入社靈祭舊十日說教舊五日二十五日、鳴物御紋願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年五月十二日

增井りん身上障り願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、身上と云ふ、さあ〳〵心得んと云ふ、さあたづねる事情、まあ事情にさしづもろたらどうやろ、さしづもろたらどうやろ、身上からたづねばさしづ事情のさとしやう、なにか事情〳〵これまで〳〵、これまでと云ふ、とんとどうもならん、どう云ふ事情、ながらえてあひだと云ふ、ながらえてあひだと云ふ、ぢゆう〳〵の理はあれど、ながらえて事情、やう〳〵の日〳〵、みなおなじ一つとなりて、事情身にさはり、どうであらう思ふ處、これまでと云ふ、まあはやくの處、まあ事情と云ふは、ながい間、國に一つ事情、まあながらえて道あれば、これで國に一つ事情、萬事心にかゝりた、心にかゝりたどうやしらん、どうやしらんながらく心にかけ、日々おくりきた長い事情、やう〳〵およぼさにやならん理からあつまりた、萬事國々處、めん〳〵の處心にかけんやう、事情と云ふ、とほい處は心にかける事いらん、内と云ふ理がある、心にかける事いらん、めん〳〵心はゆつくりもつがよい。

明治三十一年五月十三日

東部内山王布教所以前地方廳に出願の處却下に付改めて出張所に引直し再願、擔任は前田政七に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

同部内神濱出張所教祖様を奥座敷に鎮座ありし處二階の方へ鎮座の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり、さあゆるしおかう〳〵。

同部内川越支教會所普請並に附屬建物普請願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵心だけ〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

五月十五日地ならし六月一日手斧始木作出來次第上棟願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月十三日

城島部内石垣出張所新築願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほりにゆるしおかう〳〵、さあ心だけ〳〵ゆるしおくのやで〳〵。

明治三十一年五月十三日

高知部内大善布教所設置願（福岡縣三潴郡大善寺村大字宮本千四百二十五番地）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ尋ね事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

擔任堀田榮二郎に致し度並に地方廳出願の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるそ〳〵〳〵。

明治三十一年五月十四日

北部内多加野出張所普請願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵〳〵はねがひどほり〳〵にゆるしおかう、さあ心だけ〳〵、さあ心だけゆるしおくのやで、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

閏三月二十六日より地ならし石搗手斧始、木作出來次第上棟、上棟出來次第擔任家族引移り願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵さあゆるそ〳〵〳〵。

明治三十一年五月十七日

本部内藏の西手へ神饌所建築願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、あちらこちら〳〵、さしかけふしんや〳〵、かりや〳〵といふたる、かりやはかりやだけ、もう是何時もつていてなほすやらわからんともいふ、その心ばへでかゝりてくれ、なんぼいふてもとんとどんならん、ていさいのよいみてくれのよいやうにとおもふ事はどうも受取る事でけん、かうせにやていさいのわるいといふやうではならん、何時もていてなほす事できるといふだけならゆるそ〳〵。

明治三十一年五月十七日朝

梅谷おたね身上願（足痛につき願、本部事情あり）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵どちらへかゝるともわからん、どういふ理からはこびだすともわからん、尋ねる〳〵、尋ねにやわからうまい、だん〳〵さとした

る、身上から事情、なんでもかでもをさめにやならうまい、よう聞分け、是迄〳〵みんなそれ〴〵、常詰とはいはれようまい、又それはでけやせん、なれど心は常詰、はやくに聞取りてはやくにさだめ〳〵、なんぼでも〳〵ひまがいる、ぜん〳〵からのつづき、前日よりのさしづ、幾度のさしづ、一日の日をもつて、順序ひきならすといふ理もさとしたる、是からといふ萬事取きめ、何かの處さしづの理をもつて取極めといふたる、まだいかん、どうでもひまがいつてならん、よう聞分けにやならんで、是までもんかたもない處、ほのかに聞いた理は、ぼつ〳〵一つ〳〵みえてあらう、どうでもかうでもみにくい處は取けしてしまはにやならん、なんぼさとしてもきかしても、一寸あちらの理を取る、こちらの理を取る、おもはず〳〵ひまがいる、取りきめた理はない、日々のさとしにもするやろ、一軒一人の事情は家内の理ともさとすやろ、はやくたすけにやならん、たすからにやならんといふが互の理、よう聞分け、めんめんもたすかろともせず、それ〴〵もたすけようともおもはず、そんな事で日々つね〴〵取次話したすけあひの理にあたるか、さしづどほりの

理をまもれば、はやく〳〵談じ取極り、此てんはかうしました、どうしましたと、一つの理きまりなくてはなろまい、この理よう聞取らにやならん、理といふは一つにをさめかけたら、みなをさまる、あちらも一寸、こちらも一寸はなしかけ、半ば〳〵のやうではどうしてものの極りつくか、こら理や、そら理やと、人間かつての理、神の道になき理を引出すからをさまらん、きまらん、そんな事ではをしへの理はとけやせんで、日々どういふ理をもつて取次いでゐるか、一手一つの心をしへ一つの理をもつて、うれしい心を日々きかしてくれにやならん。

押して、只今御聞せ下されますは重に本部の事情こもり居りますがなれど、梅谷の事に付、梅次郎を役員一同より副會長にだん〳〵願はれしも、また〳〵と申しをられ、又縁談も一寸話し御座りますが、此處は如何に御座ります哉願

さあ〳〵たづねる處、中途からおつとでたぶにやさとしにくい、一らく理ををさめてきまらにやならん、ぢばに一つさしづどほり、理がをさまればかうさしてもらいたいといへば、よし〳〵といふ、今一時尋ねる事情はいくへ何だんの理にあつまつてから一つの理、ぜん〳〵よりのさしづとりきめ、一條のさとし何もむつかしいことはいふてない、めん〳〵むつかしい事こしらへるからむつかしなる、いふとほりにしたらいふとほりになる、よう聞分け、この道いふとほりの理よりでけたのやらうが。

押して、梅谷は私儀この二三年前御指圖につき御本部へ常詰さして下さるやうな指圖から内々もだん〳〵取極り御本部へ詰さしてもらひ居りますがまだ十分の事にまるりかねます故此處願

さあ〳〵その日きたるがよういならん理をよせてある、今の事情ほつておけるかおけんか、内々身上さはりより、ようしやんしてみよ、身上はあんじる事はいらん、身上たすけるため、一時心を定め、さあ〳〵みんな早く〳〵、さあ〳〵是からといふは、いといふたらい、ろといふたらろ、ぜん〳〵にも一二三といふ、きちつとしたさしづしてある、なれどかうやらうか、どうやらうか、かつて〳〵の理ばかりで、一寸もをさまりはない、月に一度、一日の日をもつて月次祭ともいふ、かへる〳〵、つもつた理ばかり、あざやかなる話しは一つもあらせん、あすは月次祭とい

へば、よひの日よりみないさんではたらかにやならん、時々さしづ、人々事情さとしても、一つもさとしよう事もなく、よろこばす事もなく、どうしてゐるのや、みのさはり〳〵といふ、はやくたすからにやならん、たすけにやならん、これは教の理、よう聞分け、身上の事情より一つのさしづといふ、この理よりたがひ〳〵をさめかた、取りきめかた、はこんでこそ助ける理、又助かる理ともいふ、是を一つよう聞取つてくれにやならんで。

明治三十一年五月十七日

芦津分教會長井筒五三郎池田支教會開筵式に出張願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵にみな事情理からものと云ふは、萬事治まりたる、さき〳〵からかうと云へば、さあ〳〵と云ふて順々の理をもつて治めるやう、さあ〳〵ゆるしおかう。

明治三十一年五月十七日

兵神部内屋神布教所移轉願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はぜん〳〵に事情一つ又一時もつてかうといふ、一時もつての事情には、みんな一つの理のをさまりの理にゆるそ、さあ〳〵。

鎭座式開筵式舊四月十二日鳴物六つ、高張旗、御供施與、入社式舊五日說教舊九日十九日願

同部内神本出張所移轉願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう。

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、前々事情一つ事情一時又一つかうといふ、みんなそれ〴〵の心一つをさまりの理にゆるしおかう、さあ〳〵ゆるしおかう。

明治三十一年五月十七日

中河部内高臺布教所設置願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情ねがひどほり〳〵ゆるしおかう、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳へ出願の伺

さあ〳〵尋ねる事情〳〵すぐと〳〵。

明治三十一年五月十七日

御津部内大南出張所移轉願

さあ〳〵尋ね事情〳〵、さあ〳〵事情は前々事情一つ、又一時かうといふ尋ねるにはみな心といふ、事情みんな心にをさまるといふ理にゆるしおかう。さあ〳〵ゆるしおかう。

右新築本月二十日より六月五日迄に落成の願

さあ〳〵尋ね事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるそ〳〵。

明治三十一年五月十八日

南海分教會卯寅の方二間一間半の神饌所建築願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月十八日

北部内美袋出張所普請願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほりにゆるしおかう〳〵、さあ〳〵ふしん一條心だけをゆるしおくで、みないさんでこれだけといふ處だけゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十日

郡山部内早岐布教所設置願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳へ出願の伺

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

同部内百濟布教所設置願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳へ出願の伺

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十一年五月二十日

郡山部内津輕出張所北の方へ建物建出し願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

同部内綾部出張所擔任住家の東南の隅に井戸一ケ所願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるそ〳〵。

明治三十一年五月二十日

高安部内海草出張所新築落成に付舊四月七日還座祭舊八日開筵式願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十日

東部内仙波出張所普請願（教會所五間に八間、外に玄關三坪及椽附、玄關の辰巳に井戸一ケ所、地ならし新五月二十五日手斧始同日、木作出來次第上棟願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情ねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵、ゆるしお

くが心だけ〳〵ゆるすのやで、心だけ〳〵。

明治三十一年五月二十日

中河部内若江支教會移轉願（中河内郡八尾村大字今井五十五番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はぜん〳〵一つ事情一時かうといふ、一つの理、みなそれ〳〵あつまる理、をさまる理の理にゆるしおかう〳〵。

同擔任變更の處後任大東磯吉に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵事情といふ、一時よぎなく事情あらためて一つ、それ〳〵をさまりの理にゆるしおかう〳〵。

同舊十五日月次祭新三日入社式鳴物九つ御紋、說敎新三日十三日二十三日願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほりゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十日

南海部内紀尾支教會役員田中四郎治、擔任山田龜吉所持地へ二間に二間半の古家建築願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう、ゆるし

おかうが一つの理、事情きゝとれ、どうがよかろ、かうがよかろ、一日の日心のをさまりしようらいの理にゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十日

堺部内遠賀布教所設置願

地方廳へ出願をする事伺

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう。

さあ〳〵事情はすぐと〳〵。

明治三十一年五月二十日

山田作治郎及家内身上願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、さあいかなる事情たづねるであろ、身上事情さとしてそれ〳〵じゆんじよう、ほんになるほど事情、なか〳〵大き事情、道といふ、一つ〳〵をさまり事情、又身上あちらかはり、こちらかはり、又一つ事情がもれおちあるかわからん、大ていあざやかなる事情、皆それ〳〵一つであつて思ひがけなき事

情は、役員と云ふてある、どう云ふ事であると思ふ、一つの理さとしおく、まあよう聞分け、皆一つに思ふてゐて、思ひちがつてあるほどに、どつからどうといふ處から、一寸一つの理、かすか一つの理ついもちこむほどに、事情第一どう云ふ事に思はず、内々事情これでなあ、をさまりかけたら大き事情をさまりくる、身上の處あんじる事はいらん、あんじてはならん、どんな事ほのかといふ事情にさそはれんやうにせにやならん、これ一つさとしおく。

明治三十一年五月二十一日

兵神部内名田支教會新本月二十三日教會上棟式御紋御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十一日

山名部内北岩手布教所移轉願（同郡大字江州四十七番戸へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はぜん〳〵一つ一時かうといふ事情尋ねる、事情それ〳〵の心一つあつまる理にゆるしおかう〳〵。

擔任變更後任を仁藤八太郎に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵一つの事情、ぜん〳〵事情一時かうといふ、さあゆるそう〳〵。

入社式舊三日說教同日十三日二十三日、鳴物六つ願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十二日

山名部內諏訪支教會月次祭舊十一日說教新一日十一日二十一日九つ鳴物御紋願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう。

明治三十一年五月二十二日

中河部內泉河出張所移轉及擔任變更願（法善寺村六百八十番地へ後任大橋嘉藏）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はぜん〳〵一つ又一時もつて尋ねる事情、それ〳〵みなあつまる心、みなをさまりの理にゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十三日

北部內邑美布教所移轉及擔任變更願（後任青木吉造）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵事情一つ又一時事情もつてかうといふ、みな心といふ理あつまる、ゆるしおく、ぜん〳〵の事情人一つの理、さあ心にゆるしおかう〳〵。

同部內美穗布教所擔任變更願（後任原米藏）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、前々事情一つ又一時事情もつてかうといふ、みな心といふ理にあつまる理にゆるしおく、さあ〳〵心にゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十三日

旭日部內家城布教所設置願（擔任岩崎乙五郎）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳へ出願の伺

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほりゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十四日

伊勢大廟内宮火災に付教長様火事御見舞として御出張御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、どうもこゝろえん事情だけ一時事情、こゝろえんまでまかす、きやすみ一つの理ゆるしおかう〳〵。

隨行員として増野正兵衛、篠森乘人の願

さあ〳〵願ひ通りゆるしおかう〳〵、さあ〳〵又一つ一寸事情、さあ〳〵あちらふしぎをきく、こちらなんをみる、ようこゝろえてきいて、どこにどういふ事、ほのかに一つ心ををさめば、よいといふやうではどんならん、毎夜〳〵さとしたる、どういふ事かういふ事ならんさきから道の爲め、はや〳〵それ〴〵心はなしまでない、いつ〳〵のせきに一つ道理いさゝかなる道理きかしてある、これから道の理、こゝろまことよりないで、みなつくしあひたがひ〳〵理のつくしあひ、一つこの理たゞきゝわけ、これよりおして、くどう〳〵はなししておく。

明治三十一年五月二十五日

泉支教會移轉願（泉北郡向井村字中筋一千七十五番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあぜん〳〵事情一つ一時事情もつてかうといふ、事情はみなそれ〳〵心々といふ、治まりといふ理にゆるしおかう〳〵。

明晩移轉祭の願

さあ〳〵尋ねる事情、さあ事情はねがひどほり、さあゆるしおかう〳〵。

泉部内向井出張所移轉願（泉北郡踞尾村二百九十五番屋敷へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあぜん〳〵事情〳〵、さあ一時もつて事情かうといふ、みんなそれ〳〵心といふ理といふ、さあ治まりの理にゆるしおかう〳〵。

同擔任仁田治三郎の處北田瀧藏へ願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵ぜん〳〵事情かう一時事情かう、さあねがひどほりにゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十五日

諸井政一身上願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、身上といふ心得んであろ、心得んであろ、事情はぜん〳〵もつてさとしたる事情、かうといふ〳〵事情にはゆるしある、なれど身上心得ん、よう聞分け、ぜん〳〵さしづながめ〳〵て心をさめ、ほかに尋ねるまで〳〵、なんどたづねたておなじ理であるほどに。

明治三十一年五月二十七日

郡山部内荒砥出張所設置願（羽前國西置賜郡荒砥町大字石那田九百八十番地、擔任遠藤秀藏）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

地方廳への願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵〳〵。

同部内宮内出張所設置願（羽前國東置賜郡宮田町大字本町千四十一番地、擔任奥岡石松）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

地方廳への願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵〳〵。

明治三十一年五月二十七日

芦津部内稗島出張所設置願（西成郡稗島村三百十二番屋敷、擔任北村太助）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵〳〵。

明治三十一年五月二十七日

山名部内東都出張所移轉願（東京市京橋區新榮通三町目一番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情は〳〵、ぜん〳〵に事情一つ一時事情かうといふ、さあ尋ねる

事情には、それ〳〵心理といふ、一つ治まりといふ、さあをさまりの理にゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十七日

高安分教會西尾文七家族共分教會へ引寄御許願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、みなそれ〳〵人といふ人、人心一つといふ、さあ〳〵日々のとほり、日々の事情心といふ理をさまつて、いつ〳〵事情たづねる事情、まあ〳〵それ〳〵みなの心、理といふみんな心一つがどこからでも、かしこからでも、あきらか道といふ、みなつくした理は、重々うけとらにやならん、又をさめてやらにやならん、たづねる事情は、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十七日

河原町部内尾山出張所移轉願（同市山田屋小路二番町一番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はぜん〳〵に一つ一時事情もつてかうといふ、尋ねる事情はみなそれ〳〵あつまる理、さあをさまりの理にゆるそ〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十七日

同三間半三間半の增築願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあゆるそ〳〵。

同出張所月次祭舊十五日說教舊四の日入社祭鳴物御紋願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵、さあゆるそ〳〵、さあゆるしおかう。

明治三十一年五月二十七日

撫養部内南阿支教會擔任分教會長兼務の處岩佐彌太郎を後任に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵ぜん〳〵事情一つ一時もつて事情、みなそれ〳〵事情、さあ〳〵あつまる理、さあ治まる理、さあ〳〵をさまりの理にゆるしおかう、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年五月二十七日

南海部内紀ノ川布教所移轉願（同町二丁目二十六番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はぜん〳〵に事情一つ、さあ一時事情一つ尋ねる理
〳〵、事情にそれ〳〵事情、みんな一つの理、さあ治まる理、さあ治まりの理にゆ
るしおかう〳〵〳〵。

同部内牟婁出張所床下及屋根修理の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年五月二十七日

高知部内長岐出張所月次祭舊三日說教六の日、鳴物御紋、開始舊四月二十七日願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう
〳〵。

明治三十一年五月二十七日

小玉の件に付願（小東小玉）

さあ〳〵たづねるまで〳〵、とんとどうもならん、一時萬事をさまり、どういふさ
しづも、かういふさしづにまだおよばん、たづねる事情はづつと〳〵、かゝり合せ

〳〵、さあ〳〵あかず〳〵。

明治三十一年五月二十九日

郡山部内佐賀出張所移轉願（佐賀市與賀町字川原小路二百五十番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はぜん〳〵に一つ又事情一時かうといふ、みんなそ
れ〳〵心といふ理〳〵、みんな心の理に治まるといふ理にゆるしおかう、さあゆる
しおかう〳〵。

明治三十一年五月二十九日

兵神分教會下山手通七丁目二十番及二十三番地より三十一番地まで前教會所御授け頂きし處へ教會所引移
し炊事場と共に移し十四日地ならし大工始め願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵、さ
あ〳〵ゆるしおかう〳〵、さあこれまでといふであろ、たのしみ中にたのしみ年限
なあ〳〵思ふ、一つ理はよぎなく理、一心の理、たん〳〵事情何年何ヶ年いぜん
〳〵かそへて、それ〳〵たのしむなら、これから〳〵じいうよう〳〵、さあゆるそ

〳〵。

古い建物の處へ四月二十三日夜御遷の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、じいうようといふ理は、はなした理、どうなりとかうなりと、さあまかせおかう〳〵。

明治三十一年五月二十九日

南海部内紀ノ川布教所移轉の處藏四月二十二日家移り同日鎭座式の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵事情一つ又一時事情かうといふ、一日〳〵の日をもつて事情かうといふ、これまでみなそれ〳〵あつまる理、治まる理、一つさあゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年五月二十九日

富田傳次郎家内中だん〳〵身上障りに付事情願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情の事情さはりと云へばどういふ事であろ、内々身上さはる、どういふ事であらうと思ふ、理尋ねる事情〳〵よく事情一つ〳〵、ま

あ〳〵いつ〳〵の事であつたか、どうもなあ、おもひ〳〵一つこれではなあ、おもた一日の日、さあ〳〵又一つ事情これではなあ、まあ〳〵一つおもひ、ふみとまりた一つ事情、これまで道すがらといふ、道のため世界のため思ふ理はけふの日〳〵事情ありたら尋ねる、事情なくば尋ねやせん、身上から尋ねたらほんにといふ、けふの日といふ、古いはなしとほからずのはなしであろ、一度の事情はめん〳〵おもた理はこれもうけとつてある、さあ思ひこれうけとる内々事情あんじる事いらん、あんじる事いらん、あんじてはならん、又ざふらふといふ理はいらん、さあ〳〵皆うけとる〳〵。

明治三十一年五月三十一日

本部にて試驗執行に付前川菊太郎、橋本清の兩氏より本局へ願出相成りしに付上京御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ尋ねる事情に、さあ今一時理といふ、どう云ふ事まあどうならうかうならう、どうしようかうしよう事情〳〵、一寸大へん心もあらう、大へんおもへどよいもわるいもわかる、早くといへば出るがよい〳〵。

明治三十一年五月三十一日

高井猶吉齒痛み願

さあ〳〵身上尋ね〳〵ば、事情まあ一寸、こちら一寸、身上心得ん〳〵、日々おく事情よつて尋ねる、又さとせにやならん、これまで身上からつけたる、にち〳〵といふ、日々年限といふ、みな心一つといふ、いかなとほるだけはしてゐる、ながら〳〵のこしだしらず〳〵とほりきたる、それよりなりたちきたる、みな心をもちて道といふ、みな一つの心と云へば道といふ、一寸さはり〳〵、日から年に、日がらほんになるほどこの理尋ねる、心といふつね〳〵理にこもりある、理はづしたらどうもならん、めん〳〵かうなら、人もかう、この理をようきゝわけにやならん。

明治三十一年六月二日

永尾楢治郎腹痛に付願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、身上にかゝればみんな事情、身上にかゝるといふはようきゝわけ、一度やない、二度やない、三度五度までさしづといふ、なんでもかでもせにやならん、とほい處から一度さしづもろたらといふてでてくる、それからめん〳〵心治め、此道といふは中々むつかしい道である、むつかしいどうもむつかしい、何もむつかしい事やない、此くらゐらくな事はないなれど、みな心がむつかしいのや、西へ行かうと、東へ行かうと、南へ行かうと、北へ行かうと自由自在、さあ〳〵さとしかける、ほんのかゝりのはなし治めば通りよい事情から治めてようきゝわけ、あちらからみてもこちらからみてもなるほどといふ理より治まる理はない、なるほどの理きゝわけ、これまで度々の理さとしたる、じつといふ〳〵、すんだ心〳〵はくもりない、曇りないのがじつといふ、何かの處年限はよほどの年限限りの處、ながらえての年限とおもふ、年限は二代目の年限となりたる、何十年といふ、これからさとするによつてみなさとさにやならん、身に事情はつきりとさとす、身上〳〵たいていわかる、ようきゝわけ、とほい處からそれ〳〵あつまりてくる中に、萬事おほい事情、あちら治まり、こちら治まりすれば、心といふ理あら〳〵治まるやうやなれど、ちよつと身上たへられん、めん〳〵心おり〳〵心

ほつと事情、いつ〳〵かといふはさうやない、とき〴〵事情あちらむいてるとも、こちらむいてるともわからんやうな心ではならん、これたしなんでくれ、これようき〻わけてなるほどといふは身上すぐとをさまる、しばらくめん〳〵かういふ事と、めん〳〵心でこれだけきかしてもろた、なるほどと内々おや〳〵の中あちらこちらあんしんきかしてくれ、これで一つ又ちよつとはなししかける、ぜん〳〵ちよつとはなしたる、むつかしい〳〵、かなゝ處から事情、この事情からはなし、なんどきどういふ事情あるとも、さとすともわからん、おもいかるいわからいではならん、ぜん〳〵さとしたる、一時さとしたる、おもいかるいくだいてはなしすればなか〳〵長い、おもいかるいは第一理であるめん〳〵どうしようと事でけん、一寸はなし、今一時といふ、そんならふことといふは心にかゝる、どうでもかうでもならしてしまふ、人間心これまで神の自由用しらず、まあわすれてしもたやうな理の世界どうりでとほりた年限、このほこりなんぼともわからん、そこでほこりはらふ、ようきゝわけ、あちらこちら十

分はきさうぢ、ほこりさつてしもたら、あと〳〵さしづ一つで治めるといふ、これ一寸さしづしておかう。

明治三十一年六月三日

先般梅谷たね、永尾御指圖より本部員會議の上農行衆なり日々本部で御勤被下青年の御方に、月々一度宛御話する事、本部長様の御許に相成りしに付、神様の御許頂き度願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵いかなる事情、いかなる事情も尋ねにやわからん、さあ〳〵みんなこれたぶんのものつれもどりたる處、なにかなしの日々のところでは、とんとどうもならん、幼少のときから萬事事情、日々をさめくる、あら〳〵とびさがした理はあつめきた道理、世界又順序、一寸かたまりかけ、じつさいかたまりが一人萬人のおなじ心といふ、これかゞみやしきといふ、これまでとんとどうもならん、人にそゝうあつてもそのまゝおいておく、きかんものはどうもならん、萬事人間心ばかりで、たゞ天理王命といふ事ばかり、けつこうわかり、どういふ理からあつまりたる、せかいの理ものがたぶんあるものもな

きものも同じやうな事ではならん、ようきゝわけ、これからさき年限は、ながいといへばながい、かぞへてみればみぢかい、ようきゝわけ、なにかの事、人がしらんとおもたて、しらんものはない、よるもひるもみなうつりてある、これ第一の理、これからどうでもだんないというやうな事ではならん、それではそだてようとおもたてそだてられん、そこでほんのぎりやていさいおもつてをさめてはなんにもならぬ、十分をさめやうとおもへばめん〳〵心しだい、なんでもかでも心つくさにやならん、心つくせばかたまりてくる、少々ではかためる事でけん、もと〳〵だいといふ、だいなしにはたらいてはならん、ようきゝわけ、つぼみの花をいけたらひとまづみられる、なれどひがらたてばほかしてしまふ、これみんなの中、これはなしのだいといふ、ようきゝわけ、月々一度の心のあらためあひ、はなしのしあひ、心はずゐぶん下からいて、人の事してやるといふはこれがだい、ほつておいても人がするといふては年限たつてもおなじ事はなしておく、たづねる事情は、十分きゝとつて十分うけとる。

押して、農行の方宮森與三郎、山澤爲造兩人取締る事願

さあ〳〵まあたいてい〳〵、年限とほりきたる、そのときじぶん、日々くみあげたやうなもの、何時でもそのばへもつてきたらどうぐがそろたる、みんなのしたからつみかさねたる、そこでどこへでたてそゝうはない、これだいとしてつたへにやならん、又一寸一つ話し、どうでもかうでも、これまで二三度さとしたけれど、あら〳〵はわかりある、なれどにん〳〵かはりて、日々席順序一つ、なんどさとしたる、一寸かうして席のもの、十人なら十人、ところの名いふてたづねるまでばしよきめ、いち〳〵たづねるまで身のそなへこれ第一、中ほどでどうせいかうせいといふては、つゞいた席の理ちぎれ〳〵の理わたすやうなもの、これするものある、わすれてちぎれ〳〵の理わたしてはならん、遠い處からさづけうけとりにくるのに、ちぎれちぎれの理わたしてはならん、ことばわづかようきゝわけ、中ほどはあとおもたら、一つ理きゝとるのは、ことばわからん、さきはどうやつたやら、中はどうやつたやらわからんやうではならん、そらふでをとりてわたしてある、なれどいき

つぐやうなもの、これ日々や、ところたづねるまで、身に一つのそなへ、よこむいてはならん、たづねかけたらどうする事いらんやう、十のものなら十ながら、ほかへちらんやう、三名とりつぎ、三名ながらならんでゐてはとりつぎやない、三名ゆるしたるはふつがふなきやう、ちぎれ〳〵わたすは一人でよいもの、そこで三名ゆるしたる、三名の心は一人の心をはたらかしてくれにやならん。

明治三十一年六月七日

平安支教帝舊四月二十四日夜事務所へ假に遷座願

あさ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり、さあゆるそ〳〵〳〵。

明治三十一年六月七日

高知部内惣河出張所月次祭舊四日說教同五の日、鳴物御紋、開始舊五月二十六日願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ尋ねる事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月九日

梅谷部内城南出張所月次祭二日入社靈祭說教十七日の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ尋ねる事情は、ねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月九日

御津部内大南出張所新六月十四日開講式、鳴物御紋、月次祭新十四日入社祭二十四日說教新五日二十五日願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、〳〵はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月九日

山澤おさよ十一歳身上願（本部事情少々こもりあり）

さあ〳〵たづねる事情〳〵、小人事情いかな事情とおもふ〳〵、さあ〳〵まあこれまいよ〳〵はなし、ぜん〳〵さとしたる、身上〳〵せつなみさはり、たちよつてた

すけてやらにやならん、たすけにやならん、かゝりあひならすぐとみえる、此事情なんとおもてる、さしづかうなつた、どうなつた、みんな一つ理、みんなわからん理、又さしづかうあればまもらにやならん、みなかゝる一つ理、身上からひきだし、今日の一つ理みんな流れをくんで結構といふ、ようきゝわけ、この理さとしおく、身上はあんじる事いらん、なれどたすけてやらにやならん、たすけにやならん、十のものなら一つ理はこんでなくばをさまつたといふ事でけん、をさまりてあんしん又たのしみ、どういふ事といふやうな理ではすみきる事といはん、ならしてしもたといへん、是よくきゝわけ。

明治三十一年六月九日

永尾楢治郎身上に付前々事情申上願

さあ〳〵だん〳〵〳〵の事情一つ理をそへる、一つ萬事事情よくきゝわけ、心にをさめて事情、身上にたへられん事情から定めた理は、将來ははづす事でけやうまい、はづす事でけん、一時身上どうもせつなみ、やう〳〵一つ自由用一つ理、これ

きゝわけて将來をさめるなら、これよりさき聞分け、どんな事した、どういふ事であつたと、さんげといふ、むりな事いはん、心だけはすぐにうけとるで〳〵。

押して、身上九分九厘まで助けてもらひ、なれどもう少しすつきりしませんから、尚精神定めにやならん處あるやう心得ますから是より兄弟の中六ツ間敷致してと願

さあ〳〵まあ尋ねるはなしといふ、尋ねる理といふはやう〳〵始め、この尋ねる理はやう〳〵のはじめ、この事情といふは、なか〳〵一寸はなしする事ながい〳〵があらあら事情〳〵、十のものなら一つでわかる〳〵、尋ねるといふはみんな一つふしといふ事なくば尋ねやせん、ながらえて中、それ〳〵兄弟、一時日々によつてどうもたへるにたへられん事情・この理は何處からの理といふ、この理はさとしの中にある、つたへる中にある、ほんの世界の道理だけもつてこれまでといふ〳〵、これではならん、こんな事からかういふ事になる、ふしぎとおもふ、ようきゝわけ、年限ながらく一つ理といふ、やう〳〵理といふ事情はこくげんまいどさしづつたへたる、なれどどうもならん、さとし通り、さあ一二三この理さしづ通り治まれば、

何もいふ事ない、これまで何もならん事情とほりてきたわいなあ、これよりうらおもて〳〵、これからはじめかけた中きいてゐる、この事情風のたよりでわからん、そこでわいわいすればどうもならん、みなみのがし、さとし理はふかい理さとし、やう〳〵ようきゝわけにやならんで。

さあ〳〵〳〵あちらからもこちらからもそらでる、そらくる、にぎやかしいなつてきた、ふるき年限たてば十年ひとむかし一代といふ、この中に一つこもりある、中々ふかいつれ通りたる理わからん、そこでみな心である、一寸まにあへばよいよい、人間心、此の道人間心でけたのやない、なか〳〵の道〳〵、是からきゝわけはなしさとす理はかず〳〵ある、なれどあとやさきでわからん〳〵、風のたよりでは理のあはせでけん、一寸さとしかけたるこの理治め、あと〳〵何時どういふ事さとすともわからん、一時兄弟これ一つさとしたる理なれど、心あはねばどうもならん、夫婦でもどうもならん、親子兄弟でもあはんといふはどうもならん、二人のなかでも夫婦の中でもどうもならん、そこで中よくといふはむねをへだてたかて、心

から中よく治まる、一ぺんへだて、このむすんだる理中よくなければならん、これきゝわけてくれ。

明治三十一年六月十日

船場部内荒原支教會表門增築願

さあ〳〵尋ねる事情、なんどきにてもゆるしおかう。

明治三十一年六月十日

南海部内阿田和布教所地換へ普請致し濱口文二郎、榎本鐵次郎家族共引移り願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵〳〵はゆるしおかう〳〵、みなそれ〳〵心といふ理あつて日に〳〵事情といふ、十分の理なら何時なりと十分の理ありて日々の理なら何時なりと、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月十日

梅谷部内今小路出張所借地に建出し願、教祖様御靈所

さあ〳〵尋ねる事情、なんどきにてもゆるし〳〵おかう。

明治三十一年六月十一日

日々信徒より御そなへ致しますさいせんの處、是迄親様へ御尋ね不申上して若い者手傳つて開いて居りましたが、是は本部員立ならんて共に開かしてもろたらよろし御座ります哉是迄通り若き者手傳ふてもろて開いてもよろし御座ります哉伺

さあ〳〵尋ねる尋ねる事情〳〵、さあ〳〵どういふ事も、かういふ事もみな一つぜん〳〵事情もつて尋ねる、尋ねるならばさしづといふ、さしづの理をもつてすれば、神の理からすれば、どこに一つどうかうといふ理はない、又むさくろしい理きこえんきこえん、さしづ理はたがはん、さしづ理はたがはんなれど、これまでよき事わからん事ばかりであつて、今までどうもならん、これから尋ねる、一つ〳〵さとす、さとしたらさとしの理をまもればこれ道である、又かはりた事あらうまい、かはりた事あろまいが、なれどとりやうでかはる、これみんな又かはらんやうちがはんやう、これだいといふ、又かゞみやしきとさとしたる、かゞみやしきにねたみありてはいつ〳〵うつとしいてならん、これきゝわけ、はじめかゝりといふ、はじめかゝりはみな一つの理、一つの心の理であつて、世上どんな事情もあり、どうなりかうなりそこへそこへをさまりてありやこそつれてとほり、もうあらうか〳〵、だん〳〵くつがやしまぜかやし、人間心より神の理をかきたる處から、あんしんをさまりにくい、ようきゝわけ、日々あたへ、月一度、一つの心といふ、あら〳〵のものみんな中に、たかいひくき事情、とりつぎ、それ役員といふやろ、これたのしみほどこさにやならん、ほどこさにやならんといふは、あたへるといふ、さうやない、日々心にたのしみ、月にこれだけといふ、これだけつこうあたへといふたら、神の理ようきゝわけ、小ども何もかもではとんとどうもならん、そこであつまりてゐるだけ、そこでやく〳〵といふ、ゐんものはどうもならん、ゐやんまはぜんにゐた、又かへりてゐた何名何人、きいしきたちあふてとそらいかん、そこで内にゐるものだけ、そとへでるものどうもならん、日々とりつぎしてゐる、やく〳〵あちらこちら理を治め、ほんにこれでとたのしみ、これだけかたく理をあつめ、これまではやく〳〵とさとしたる、又日々の處かきだしどうやらうかうやらう、あつま

る理は一寸いこまい、なれどとりはこぶ理、日々かはり〳〵といふ、かはり〳〵順序理といふ、じつの心、たがひ〳〵はやいく〳〵、又今日あす〳〵、これまですつきりならしてしもたといふさしづある、しやんしてみよ、すつきりならしてしもたとりけしてしもたといふ、すつきりしたさしづあらうが。

さあ〳〵それは〳〵そのとほり、たれにわけてやらにやならん、そこは日々ゐる、それ日に〳〵あつかふ處いきにいく、いきたあたへはいつまでものこりおいて、その理がます理がさかえる、なれどけつてしもてはならん、人のたねくさらしてはならん、なんぼたかいとおもたて、いきにいく事はせにやならん、くさらしてしもたらものかはらせん、いきにいくあたへあれば、だん〳〵の目がまある、だん〳〵さかえる、これみんなの理にさとしてくれにやならん。

月々の祭式並に御勤神樂及鳴物順番を以て勤めさしてもらふやう本部長様よりきめ被下しに付申上願

さあ〳〵尋ねる處〳〵、さあ〳〵尋ねる事情に、ぜん〳〵の事情もつてき　りといふ、治まりといふ、まああちらこちらきまりついたる理といふ、それ〳〵何名何人

事情である、中の事情、かはり〳〵、何名何人いふたてそのときによつてかはりといふ、これだけかはりといふ、これだけしつかりきゝわけておかにやならん。

教祖様の處月次祭前後三日參拜人に不都合なきやう本部員かはりあふて詰る事願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、まあ尋ねば一つ事情もさとしおかう、ぞんめいといふ〳〵、一つぞんめいならそこへ〳〵は日々である、又日々の處である、日々の處かはりといふ、かはりばんとして日々そばへと云ふ、尋ねる處はかはりといふ、きゝちがひないやう、ぞんめいよりもらいうけ、じつとしてゐる、この事情をひ〳〵あつまる、今一時日に〳〵つきばんしてゐる、またもりしてる、これはほんのかはりといふ理で、今の處ではかはりばんといふ、そこでとしのとれた女といふ、年のとれた女といふ、これは一人では事がかける、そこで二人といふ、時によつて三人ゆるしおく、とうぶんの處かはりばんとしてゆるしおかう。

押して、右の事情申上けやうとしてゐる處へ

さあ〳〵十分に尋ねかやすがよい、又きゝちがひありてはならん、尋ねかやせ

〳〵、日々きうじといふ、ほんのかはり、かはりといふはよんどころない事情つとめてる、ようきゝわけ、一人では事がかけるどんならん、そこで年とれたながらえての順序二名三名、これそばにいねばどういふものはいつてきたかて、そらかうどうといふて注意すればさしかまへない、人がたらん、一人どこらへいたやら、たれもいやせん〳〵、何もわからん、ようきゝわけ、やぶんといふよぶかといふ、そこへ〳〵、もうやすもうといふは、やすんだらよい、ずゐぶんにぎやかといふ、すゞしくといふ、ぞんめいはなしあふてる、ようせにやならん、日がくれたらそこにいゝでもよいといふやうな事ではならん、存命中、やぶんやすもふ、もうやすもといふ、一人ではつとまらん、二人といふ、又三人といふ、すればはなしあふてるもおなじ事、しらんものきたてはなし、やう〳〵たれもいゝではしやうない、これだけつとめにやならん、又月々月次祭、こちらからどうしよう、かうしよう、それはきげんにしてくれるがよい。

明治三十一年六月十二日

増野正兵衛腹痛少し又小人おとも身上何處となくわるく一寸齒の障りに付願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ小人といふ、さあ〳〵小人どういふ事である、身に一つ事情あれば、一時事情、小人事情、よく事情きゝわけにやわかりがたない、みんな一つの身のさはり、身のさはり、尋ねる事情にはみなさとしある、どういふさとしなら、人々さとしはみな一つの事情〳〵、ぜんからはじめかけたる、あちらへさはり、こちらへさはり、一時事情もつてあらためかへたる事情、ようきゝわけ、どうであらうとおもふ、さしづからあらためため、身上どうであつた、あんじにやならん處から尋ねる、さしづ一つあざやかなら、なにゝついてもあざやか、あちら小人こちら小人、萬事小人みのさはりなら、たすけてもらはにやならんが一つの理、又みなの中からたすけにやならんが一つの理、こりやもちあひようきゝわけ、身のさはりなんでもかでもたすからにやならん、たすけにやならんぶみんなの理、これより理がない、たがひたすけあひは理に治めてゐる、さしづから萬事あらため、これ

までどうもならん、とほりた道とりかやす事でけん、そこでこくげんさとしたる、ついど〳〵みんなせいしんあつめて、ほんの一日おくり、そこであちらさはりこちらさはりならんから、一つあらためてはじめかけ、みんな心より心一つにせにやならん、又ならにやなろまい、ようきゝわけ、これよりとりつぎ事情一つ事情いつまでおなじ事、又さしづこれといふをさめる、ならん身のさはりでも一時にをさまる、一どに治まるといふはさはり、いつまでといふは身のなやみ、そこで日々さとし日々とりつぎけふあすといふはこんでくれ、十のものなら九つまではこんで、あと一つのこりては一つほこり、又にごりこれしきりてかうせにやならん、これ定めて日々とりあつかひ事情、事情はめん〳〵それ〴〵でこした處どうもならん、めん〳〵事情としてとほれん、日々これどうもならん、ようきゝわけ、何名何人けふあす、又すぐ事情治めるならさしづどほり、すみきつて〳〵又ほこりあろまい、神はほこりはきらひ、すつきりすみきらにやならん〳〵、人間心からみてくもり、一寸あればそこまでにごつたるといふも同じ事、小人身上あんじる事いらん、ようきゝ

わけ、みんなたすけてやらにやならん、たすからにやならん、これがだきあひさしづもつてたれこれ道、このぢばすんでゐれば、さしづいかんとこらいへやうまい、これようきゝわけ。

押して、日々あたへ開きの事に付願

さあ〳〵たづねるやろ〳〵、さういふ處尋ねにやならん、そこで尋ねるからきつしりさしづする、さしづするからたがはんやう、くはしい筆にしるしてくれ、月々の處おなじ處、又事情とほく處から役員といふ、兩方かけてゐれば日々詰員といへん、理はおなじ事であれど、日々はたらき兩方内も外もでけやせん、そこでこれまでといてある、又詰所事務所といふはおなじ理、ようきゝわけ、たゞ中の理にして、あちらへこちらへ、かけへだてならん、ようみんなたちならんですればあきらかなもの、そこで尋ねるまでの理ある、日々はたらき事情なにから〳〵といふ、それはめん〳〵にあたへてやれ、中にといふてすれば中にあたへてやれ、これですつきり

わかる。

押して

それははたらきあたへ、ようきゝわけ、はたらきにあたへ、おらさういふはたらきしてゐん、これどうもならん、あちらへこちらへたちならんですればあきらか、これよりあきらかはない、この事情といふは、めん〳〵でほこりこしらへて、めん〳〵にすればどうもならん、これよりあきらか、日々それ〴〵何人でてくるやらしれん、そこで取扱心と云ふ、どうしてくれ、かうしてくれこれはない、みんなでゝくるもとりあつかひも心、心といふは、日々順序別席又本席、これも何人あらうがいく人あらうが、けふあすこれだいの理、これさへ心にもつて事情すれば、何も心に事情ない、いふ事はない。

押して

さあ〳〵それはもうぜん〳〵よりつたへたる、内もでけりやそともでける、さうはいかん、同じやう行うまい、内にあるかそとにあるかあたへあるのや、これよりきれいなさしづしやうがない。

明治三十一年六月十二日

寺田半兵衛（五十九歳）**手足自由ならずロきかんに付身上願**

さあ〳〵たづねる事情、さあ身上に心得ん事情、さあ〳〵尋ねる事情は一寸よほど事情、まあたいそうといへばあんじるであらう〳〵、なれどちよつとみればたいそうにいふ、どういふ事でかういふ事になつたやらう、みなおもふ身上ふしぎやなあ〳〵、何かどうどかうど道といふ、これからといへば身上〳〵心得ん思ふ處、一寸身上よほどたいそう、一時どうとはない、たづねる事情のさとしにはこれまで事情さとしてあらう〳〵、内々もどうなり、事情かうなり事情やれ〳〵とおもふ處、日々の處まあ〳〵ながめてみれば〳〵、おもひ〳〵の日をとつてる、これさとしにくい〳〵、なれどさとさにやならん、ほそ〳〵道、今日といふ日あろまい〳〵、なれど内々にはぜん〳〵からいろ〳〵道ありて、たより〳〵の道はづれ、たより〳〵の

道はづれ、めん〳〵心にをさめにくい、それ〳〵たづねあひはこびあひの中どういふものであろと、めん〳〵心しづめてかゝる、この事情たへられん、一時こはいやうなもの、どうならうといふなれどさとしおかう、どうでもかうでもおそいか早いか道、おなじ十本のゆびでもはやいおそいが道といふ、これきゝわけ。

押して、本部より誰か一名行く事願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、心だけはみなはこんでやらにやならん、又行つて事情さとしてくれにやならん。

明治三十一年六月十三日午後三時

增井りん夢に付伺（教會所の臺所の中へ屋根を突き貫いて小石が降る夢なり）

小石がふると云ふ夢は、小石といふものは、だん〳〵大きになる、おほきいなれば岩や、岩ほどかたいものはない、えい夢やめでたいゆめや、だん〳〵と大きになるのやで、小石といふものはこまかいものや、今の教會は小さいものや、こまこい小石は教會の役員一同、さづけにんぢう一同、いさぎやうふるといふのは、一同に

日々の働きいさぎやう〳〵〳〵たのしみやで〳〵〳〵。

明治三十一年六月十五日

兵神部内福川出張所擔任宮本林藏の處宮本榮太郎に願

さあ〳〵尋ねる事情、ぜん〳〵事情は一つよきなく事情一つみな〳〵あつまる理、治まる理、みな〳〵それ〳〵あつまる理にゆるしおかう〳〵。

同部内二木支教會擔任富田傳次郎の處後任藤村貞治郎に願

さあ〳〵尋ねる事情、ぜん〳〵事情一つ又一時もつて尋ねる、事情はみな〳〵それ〳〵理の治まり一つ事情理にてゆるしおかう〳〵。

兵神部内下松布教所移轉願（同郡豐井村南桑新次郎宅へ）

さあ〳〵尋ねる事情ぜん〳〵事情、又一時かうといふ處、事情はみな〳〵それ〳〵かうといふ理にてゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月十五日

河原町部内末廣出張所設置願（近江國滋賀郡仰木村字下仰木五千八百三十五番地）

さあ〳〵尋ねる事情、さあ〳〵事情はねがひどほりゆるしおかう〳〵。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵はすぐと〳〵。

同部内途中出張所設置願（近江國滋賀郡伊香立村字途中二百六十五番地）

さあ〳〵尋ねる事情、さあ〳〵事情はねがひどほりゆるしおかう〳〵。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵はすぐと〳〵。

同部内近滋出張所設置願（近江國滋賀郡伊香立村字南庄千四百五十番地）

さあ〳〵尋ねる事情、さあ〳〵事情はねがひどほりゆるしおかう〳〵。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵はすぐと〳〵。

同部内伊香立出張所設置願（近江國滋賀郡伊香立村字下在地二十三番地）

さあ〳〵尋ねる事情、さあ〳〵事情はねがひどほりゆるしおかう。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十一年六月十五日

中河部内神川支教會擔任多鹿清長の處安富常治郎に願

さあ〳〵尋ねる事情、ぜん〳〵事情一つよぎなく事情であらう、又一時あらためてかうといふ處、事情はみな〳〵それ〳〵あつまる理、さあ〳〵治まる理にゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月十六日

郡山部内肥西布教所移轉願（佐賀縣藤津郡嬉野村字下宿四百三十八番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ尋ねる事情。ぜん〳〵事情一つ一時事情かうといふ、みんなそれ〳〵〳〵心といふ心の理といふ理の治まりの理にゆるしおかう〳〵。

同部内榮城布教所移轉及擔任變更願（同縣藤津郡鹽田村百九十一番地へ、擔任池田與太郎の處中島今朝一

を願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあぜん〳〵に事情一つ事情一時かうといふ、さあ〳〵事情はそれ〳〵心といふ、理といふ治まる理にゆるしおかう、さあゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月十六日

山名部内相良布教所を出張所に引直し願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

同所二藤友吉を副擔任に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵心といふ理がある〳〵、又心といふ理はみんな理にある、心といふ理がみな〳〵の理にある、さあ事情はゆるそ〳〵〳〵。

明治三十一年六月十六日

高知部内津野村布教所設置願（高岡郡西津野村初瀬八十七番屋敷、擔任津野清藏）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵〳〵はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵〳〵。

明治三十一年六月十七日

本部水車の川の南側の空地の處本部の地に求め其處へ石垣する事願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、事情はそれ〳〵まかそ〳〵〳〵。

明治三十一年六月十七日

諸井政一身上に付國三郎より願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、身上の事情いかな事情尋ねる處、萬事事情といふは、ぜん〳〵事情からさとしたる處、その事情はそれと一つ理、よう聞分けにやわかりがたない、よう年限のどうりからかぞへてみよ、何ケ年かぞへてみよ、神の道は元よりあらうなれど、一代はじめかけたる、つくりかけたる處、年限かぞへてみよ、とほく處まあはじめかけた、今と云ふは西へむかふと、東へむかふと、まゝこの理よ

う聞分け、たあたこれをしへの理一つ理一つ、一つ理から萬事事情、一つのどうりからはじまり〳〵、中にどうりありてをさまらん、そのどうり一つからをさめ、よう聞分けでけがたない處、一つはじめかけ、一つはじまりてありやこそ今日の日といふ、外へ心ちらさんやう、小人〳〵めづらしい理あろ、めづらしい事からさづけたる、どの子もかはいは親の子、ぢば一つからをさめた〳〵、二つはならん〳〵、一先は一二三までいく事でける、なれどそのほかこせん、この理さとしたらみな心にうかむ、一つ子供身上なやむ、あちらこちらかゝる、元何年いぜんさだめた理は、しようらいそらさだめてみる、なれどあちらの風、こちらの風にまよはんやう、しようらい事情さだめ、小人たる理おもひ、さはる理おもひ、事情さだめ、萬事どうりさとす、この理はしようらい末代の理であるほどに。

明治三十一年六月十七日

毎年暑中休暇蓙七月二十六日迄前五十日間毎年の定めに致し度願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵遠く處さあ〳〵遠く處〳〵、事情とき〳〵一つ

理、事情もつて一時さとする處、一時尋ねる、さとす事情ははじめかけその前はかうといふ事情、將來一つ理と定めおかう。

明治三十一年六月十八日朝

御授の後にて

さあ〳〵一寸事情によつてはなししよう、萬事刻限事情さとさう、よぶかみなそらふて尋ね出るがよい。

明治三十一年六月十八日夜

今朝御授の後にて夜深かに尋ね出よと仰せ被下に付願

さあ〳〵〳〵事情〳〵、願ひ通りの事情〳〵、さあ〳〵事情は刻限さしづ、刻限といふてまいよ〳〵刻限事情もあり、聞く刻限中にどういふ事もかういふ事も知らしおいたる、かず〳〵中にあつて一寸しらべる事でけん、しらべる事かず〳〵の中でどうもむつかしい事であらう、刻限にでてある、年限の內〳〵かず〳〵の中や、どういふものもかういふものも、事情は是までどんな事もみないろ〳〵とほりた事だ

けは分る、とほりた事わからねばさきはいつの刻限にでるやらしれん、どうでもかうでも日限といふ、およぼしてしまふ、そんなでけるかとおもふ年限とほりきた、今日の日どんな事もこんな事もしらしたる、實しかのこらせん、實はつよいなれど、つよいものよはい、よはいものつよい、こらよぎなくであらう、是迄通りた事わかる日がきたらわからにやならん、是迄といふ年限およんだる事、とりかやすにとりかやす事できやうまい、是からどういふ事いふたとてはこんだとて、取りかやす事できん、是迄どうならうとおもふたやろ、どうでもかうでもおよぼす、是からよはいものつよい、つよいものよはい、萬事はなしおく、さあ〳〵まあ〳〵いつの事のやうにおもてゐる〳〵、もうちかんでおよんだる、いまの事皆の心の理よくをさめてくれ、のこりた理は將來末代の理とかゝらにやならん、年限といふ年限はもうわづか〳〵、一寸話しかけたらあんな事とおもふなれど、年限よほどせまりきた、あちらこちら一寸はなしきいた、是迄とはなしころりとかはりた、一寸出てくればどういふ事であらう、うたてなものの出て來た、これからころりとかはる中に心

といふ理みんなそも〳〵ではよせる事でけん、おれがちからでよせてきたとおもてはならん、あんなものから日々はこぶ、世界道理からよる、よりやこそ是迄つれて通りてきた、なれど心そも〳〵ではどれだけどうしてやろ、かうしてやろといふたてどうもならん〳〵、よう聞分け、これから高きひくきの理はない、高きひくきの理をもたず、よりあふてゐるもの、實々一つの心あらためてくれるなら、是からといふ、いつ〳〵事情にさとしたる、高き低きでさとしできなんだ、あちらの理、こちらの理、此の理でどうもならん、どんな事ありたてさとした通り、これより樂しみの道はあらせん。

一寸してから

さあ〳〵刻限〳〵、さとしたら將來はをさめ、どうりは引ならし、のこる理をあつめてくれねばならん、それよりさしづ〳〵まもるが理、日々はこんでゐればまもるが理、あんな事とおもふは日々つくす中に、九つまもりて十とはいへん、十の理に一つかけばどうもならん、そこでまいよ〳〵さとしおく、一時さとしおくはあらた

めた一つ理〳〵、へだてありてはとうぜんおよばん〳〵、へだて在りてはならん、へだてられるへだてる、受取る事もでけん〳〵。

さあ〳〵はこびかた〳〵、日々とりつぎ〳〵とりつぎ中〳〵、取次中に日々の席順序さづけ一條、事情これまでどうもならん、事情はる〴〵道はこび、遠くでゝくる、一時はこびかたわたす理によつてあちらおとしこちらおとし、取次いではならん、これ聞いておかにやならん、順々みちみえたようきゝわけ、授け順序むつかしいなつた〳〵、何もむつかしいないのや、むつかしいするのや、むつかしい事ではない是迄通りてきらるかきられんか、何も知らんものにせいとはいはん。でけん事せいとはいはん、はこびかた〳〵、三名日々はこぶ處よう聞分け、一席の時に人一つの理をかいて事情なんぼういふたてどうもならん〳〵、どうもならんやうにしてしまふのやがな。

（起より萬事心得て運びますと申上げ）

さあ〳〵尋ねる處〳〵、どうも理といふ理を是迄はもうかるしめる〳〵、どうもかるしめる、かういふ理人一人の理をさとしてさづけといふて、いたゞくものにわたしてどうなる、あちらむいてゐるやらこちらむいてゐるやら取間違ひありてはならん、はじめといふ、なかほどといふ、しまひといふ言葉一つ理、息と〳〵の理つぐやうなもの、中に順序あちら身をかはしこちら身をかはし、何をきいたんやらわからんやうな事ではならん、ほんの一息二息三息つかふ間にわたす、みなその理にちぎれ〳〵の理をわたすやうなもの、それではならん、授け順序まへちやんとかうしてどうしてといふてそなへをつけにやならん、たいていはしてゐるなれど、其日〳〵によつて一寸わすれたやうなもの、それは日々かはり〴〵のとりつぎであるから、どういふ事もあらう、それはだん〳〵わかりてくるなれど、今日といふ今日は不都合であつた、ちぎれ〳〵の理、理と理とつみかさねば理はづす、理をはづしてこれでよいといふは、話した理はくだくやうなもの、これ一時にきゝわけて、一度の理は將來さとしにせにやならん、遠く處からだん〳〵心をもつて手をつないでもどりてくりやこそそれにさとし、道理まもらんといふはどうもならん、みな手をつ

ないでもどりやこそ、それを聞分けるは日々取次である、よう心得たか〳〵。

一寸してから

一席さあ〳〵今日の一席といふはきてるものはしらん、何名とりついでるやらわからん、何人はこんでるやらわからん、元さづけ順序一つ定めた日あらう、ようきかにやならん〳〵

さあ〳〵三名〳〵、是順序はじめかた、中に一つ理、それと〳〵、どれと〳〵なけにやならん、むつかしいことせいとも又いへともいはん、むつかしい〳〵〳〵中に、言葉といふ理がある、ことばといふ理はどういふ事、むつかしい中、中にやさしいかなゝ事である、又わかき處、何人これは一つ理、それはめんどうとおもふ、是だけ言葉そへてすればよろこんでする、年限たてばめん〳〵もかうとたのしみ、こんな事〳〵といふはめん〳〵に理をつまらせん、たのもしい理はない、わかきものに話しをしてさとしてくれ〳〵、をしへについたる理、むつかし中にかなをいれば日々あざやか、そこでよう聞分け、あんなむつかしい事とおもへど、むつかしい

事はない、書物からだしたものでなし、かなゝ事からでける道、此の理おもひ〳〵、どれだけおもたて、日をみてをさめてくれにやならん。

日々授けに渡す書付は、なるだけ分りやすく書いて渡すのであらうと話してゐる折

さあ〳〵〳〵ぜん〳〵よりつたへたる〳〵、かいてやるものはかいてやるもの、是はいふまでかなゝもの、たから入こむものむつかしい、これもむつかしいといふはどうもならん、むつかしい〳〵、心づけば何もならん、わかりよいやうどんなものでもわかりよいやう、これいひつけばでける〳〵、みんな中にさとす處一寸まちがはんやう、又授け順序尋ねる、ぜん處何くみ〳〵名はなにがしといふ、そらわかる、どうやかうやわかる、尋ねる何がしの何才といふて授け言葉でかけたら心ゆるせんで、ほんの一人の心〳〵中でどうせいかうせいいふてはちぎれ〳〵の理になる、そこで身のみづまいちやんときめて、さうして處申上げ、これでよいといへば授け順序わかる、中でどうせいかうせいではわからん、なるほどあとでかいて一寸わたす、なれど理をうつしてわたすが、ほんの二息三息でわたす、その中に心一寸

も外へうつす事でけん、そこをちぎれ〳〵にいふ。

一寸してから

もう一寸さづけ言葉でるまで〳〵、わからん事あればそらたづねるがよい、もう何がしまん席といふてしもて言葉くだす中に、心にはあといふ事ありてはならん、さあ分りたか〳〵、是より一つ今日の日〳〵どうもふつがふ〳〵、どうもふつがうであつた、三名取次一人ふそくでわたしてはならうまい、不足なるもさとした理かるしめるから、順序かけたものよく聞取れ。

明治三十一年六月十八日

芦津部内福知山支教會二間半に十六間の建物願（舊五月一日より七月中に取りかゝり願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう、心だけ〳〵。

右建物東の方六間神殿御祀申す事願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情は心だけ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月十九日

大江部内三机出張所是までの立家に一間半に三間の建出し並に一間半に二間建出し願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

月次祭舊二十八日入社祭舊十日說教舊四日二十日、御神樂鳴物御紋附御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり、ねがひどほりゆるしおかう〳〵。

同部内三崎島出張所是迄の立家に四疊半の建出し外一寸の建物一ケ所御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほりゆるしおかう〳〵。

月次祭舊二十日入社式一日說教舊十日二十日、御神樂鳴物御紋の願

さあ〳〵尋ねる事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月二十日

芦津部内入江支教會所移轉願（新町北通り一丁目二百三十九番屋敷へ）

さあ〳〵尋ねる事情は〳〵、ぜん〳〵に事情一つ又一時事情かうといふ、又事情はそれ〳〵みんなあつまる理、さあ治まる理、治まる理にゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月二十日

山田作治郎妻身上より事情申上げ尚小人の身上願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、いつ〳〵事情にも身の障り、あちらかはり、こちらかはり、身のさはりぜん〳〵事情にもさとしおいたる、氣のやすまるやう〳〵さとしたる、一つ理又一時とんとはかりがたないなあ、事情によつてどうであらう、あれはどうであらう、日々おもひ一つ理一時心といふ、一時氣をやすめてやるといふ、一時事情さとしかける、よう聞分け、あちらこちら身のさはり尋ねる、たづねはかういふさしづありたといふ理、身のさはりから事情おやそれ〳〵一つ事情よう聞分け、かゝりといふはとんとわからんやうな道、一時どうなりかうなり道、一時年限事情としてたあたる、ぜん〳〵たのしみ〳〵といふて、あちらこちら始めかけ事情今一時、あちらどう、こちらどう、大層〳〵がみんな心たより、治める理の理としてよう聞分け、又一つ教會〳〵といふ、多分わかれといふ、先々といふ、よう聞分けにやわからん、聞いた時はほんにといふ、聞いた時とかはるからさきおくれる

〳〵、よう聞分け、治める處から治めたら治まる、どうやしらん、かうやしらん、をさまらんから小人さはりおや〳〵事情、一時なりたんやない、萬事なりくる、一時なりたる事情、みんなそこへ〳〵といふ理をもつてをさまる、治まる處から治めにや治まらせん、これ一つ理にさとしおくねで、よう聞分けてくれ。

桝井伊三郎、板倉槌三郎の二名行く事の願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、これはまあ二名といふたづねる處、それはどうでもなるべいくべ中にさとしよう、又中治まる第一一つ上に立つたら下がある、これもたにやならん、上に立つたら下があるといふ、これだけさとしおかう。

明治三十一年六月二十一日

郡山部内東大分出張所設置願（大分市六十一番地、擔任中本德太郎）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情ねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

同部内西大分出張所設置願（大分縣大分町三百二十八番地、擔任三原作治郎）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵

〳〵。

同部内飽託出張所移轉願　（本莊五百七十八番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵〳〵はぜん〳〵に事情一つ一時かうといふ事情は、それ〳〵みな〳〵心といふ、事情は治まりの理、治まりの理にゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月二十一日

永尾楢治郎身上願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情に事情尋ねる事情、さあ〳〵だん〳〵事情さとしおいたる處、身上心得んといふ、一時事情もうよからうか、もうよからうか、日々におもへどもまてどおなじ事、日がらたつ、どういふ事であろ、日々事情一時尋ねる事情、身の處心得ん事情であろ〳〵、一つはなしかけるによつてゆつくり筆にとりてくれ、どういふ事でかうなる、どういふものでかうなる、事情とほからず萬事事情どうにもかうにもならん、事情すでにどうならうか、かうならう、みな心さま〴〵心わからず、事情にはようこれとりつぎもしつかりきいてくれ、しつかり理を

きいてとりついでくれ、又みわけてくれにやならん、事みわけずたゞさしづだけもつてさとしだけではあぢやかならん、すみやかならん、これまで事情、これから〳〵〳〵さきはいふまで、今までの理かぞへてみよ、かぞへて見ればどんな事も聞き入れにやならん、又さしづさばけにやならん、今一時席一條かかりてある〳〵、あら〳〵はいたやうなものなれど、すむやいなやさうぢしたて、いなやかゝる事情これ一つきゝわけ、さしづちがはん〳〵、ぜん〳〵何か年あと〳〵さしづとつてだんじ、會議とりて事情ありた、さしづくさつたるといふ、さしづくさるようきゝわけ、さしづくさりてあるといふもの、くさりてしまふた、めん〳〵はじめるか一つ理、おもふやうなるは理、これきゝわけばどんなものでもわかる、とりまぜたやうな理である〳〵、どんな事もとりさばいてしもた、すむやいなや席一條〳〵、これきゝわけ、どんな事もとほりてきて、あとあつた事さへわかればどんな事もわかる、さきの事いふたてさきはわからうまい、ほんの目にみるだけはつちやわからせん、その時きて順序わかりたら、さきはいふまで、もう席一條の理これからはなし。

さあ〳〵尋ねる、尋ねるからさしづ、身上の事情はもう一つ順序あとより席順序
これ一つなるほどみればきれいななあ、うつくしいなあ、席と〳〵いふて世界順序
理、そらなるほどの理なれど、心は世界にしろまい、世界にわかろまい、日々の處
よくきゝわけ、此道何年あとのはなしきいてゐる、二十年〳〵、二十四五年後の事
はきいてゐる、又わかりてあるなれどその十年あとのきいてゐるか、又みてゐるか、
この理わからん〳〵、おほきものある〳〵、すめば結構といふやろ、ようきゝわ
け、一時なつたんやない、此の中の理かんじてくれ、それから席一條わかる、どう
しようかなあ、どうしようやらなあといふ、是きゝわけ、世界からみれば十分であ
る〳〵、十分であれどしんの心これでこそといふは、世界事情又めん〳〵もたのし
み、しんじつ心やすみ、ようきゝわけてくれ。
さあ〳〵かうしてはなししかける、心におもてる〳〵、みんなどうおもてる、順序
みんな心そろふてさうやなあ、むゝゝといふやうな事ばかりでなろまい、はあとお
もたらどうなる、ようきゝわけ、何里むかふへ行かうといふたて日がくれたら尋ね

る事もできん、ゆく事できん、どうもならん、そこでとまらにやならん、この理よ
うおもふてくれ、實とおもへばじつ、あんな事といふはあんな事になる、今日の話
し席一條理といふ、ようきゝわけ〳〵、身上一つ事情、一時事情一寸ならん、一寸
ならんが二日三日はじめかけたる理〳〵、心をさめかけ、ほんになるほどといふは
心あんしん、なるほどいふて七八日十日、順序たのしんでくれるやう。

明治三十一年六月二十二日

八木部内三津山布教所普請願

手斧始願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情ねがひどほり、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月二十三日

新聞社より願來る處の願

さあ〳〵ねがひどほりゆるしおかう〳〵。
さあ〳〵たづねる處〳〵、もうたづねる事情には、さあ〳〵まあいささかなるとい

ふ、事情これはまあ一ついささかなる事情は、それだけ一つ事情は、さき〳〵事情にもあれば、どこにもある、それは日々をもて事情、これはいささかなる事情である、そこでなんぼいささかなる事情でも、どうりにかなわん事情はどうもならん〳〵、すいてどうしようとおもはんなれど、事情によつてよぎなく事情〳〵、さき〳〵事情、一つまあ〳〵一つで治まつたる理によつて、理に理おもはん理ある、これどうもならん、これおもはにやならん。

明治三十一年六月二十三日

東京にて運び方に付出金被下事に付願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、もうこれ事情はよぎなく事情、もう一どの理、もうすうきり理、心おきなう〳〵、すうきりだしてしまへ。

明治三十一年六月二十四日

郡山部内金澤出張所是迄の月並祭入社祭靈祭等を舊十四日月並祭二十四日入社祭四日靈祭に御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月二十四日

河原町部内東濃出張所移轉願（同四百四十三番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情せん〳〵事情一つ一時もつてかうといふ、それ〳〵事情あつまりといふ、治まり一つの理にゆるしおかう。

同出張所月並祭舊十六日說教舊六日二十六日、鳴物九つ御紋附御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情ねかひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

河原町部内中野支教會月次祭舊廿一日の處舊二十日に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵事情一つ又一時かうといふ、それ〳〵の理である、ねがひどほりゆるしおかう〳〵。

河原町部内桑名出張所是迄月並祭舊二十日の處舊十八日御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵事情ねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月二十四日

西田龍藏農行して居られしに俄に身上せまりしに付願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ尋ねる事情にはたいへん事情、身の處といふ、さあ〳〵一寸一時どうならうといふ事情、さあ〳〵まあ身上に事情ありて尋ねる、めん〳〵これまでだいかはりておもてる事情、とき〳〵事情かはりくる〳〵、心に事情、身上事情あざやかといふ、事情はまあ一つ一時あんじるやうなものなれど、めん〳〵だいかはり一つ事情、身上あざやかなつたら一つたづねにでるがよい〳〵。

明治三十一年六月二十五日

中河部内泉河出張所月次祭舊二十三日說教新六の日、入社祭舊十六日、鳴物御紋願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月二十七日

諸井たま身上願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、どうも身上に心得んといふ事情たづねる、だん〳〵身上あちらかはり、こちらかはり、かはり〳〵の事情、おなじきやうだい一つ事情、

身の處事情だん〳〵さはり〳〵といふ、ようきゝわけ、理をはなしするならば、心にほんにとをさまりたら、身上事情なきものであるで、よう聞分けて、親にさとしてくれ、親にさとしてくれといふは、どういふ理をさとすなら、親から道あと子供〳〵、子供みておやといふ理、よう聞分け、ぜん〳〵よりも何年いぜん〳〵、いぜん年をかぞへてみよ、その時なんでもといふ理ありて、今日の日なれど、だん〳〵中にとりやうで理はおもい、元より理なら元よりの事情、元にどんな理あればどんな中でも道の理はくもりない、なれど心理によつてくもる理をさとして、ほんにとりちがひと云ふは、十分これだけさとしておくによつて、おやに事情〳〵おやに事情さとしてくれ。

明治三十一年六月二十八日

河原町部内阿仁出張所設置願（秋田縣北秋田郡上大野村字上杉乙九十二番地疋田岩吉宅、擔任菱川善次）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵〳〵。

明治三十一年六月二十八日

東部内熊ケ谷出張所設置願（埼玉縣大里郡熊ケ谷町三十四番地、擔任小坂要藏）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵〳〵。

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵〳〵。

同部内加須布教所を出張所に引直し願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵さあねがひどほり〳〵、さあゆるしさあゆるしおかう。

同部内牛重出張所擔任深野太郎右衛門の處小坂伊三郎に改め度願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵〳〵は、ぜん〳〵に事情一つ一時事情もつてかうといふ

處、尋ねる事情はそれ〳〵みんな〳〵心一つ事情、さあ治まりといふ、をさまりの理にてゆるしおかう〳〵〳〵。

同部内眞木布教所入社祭舊六日說教新五の日鳴物願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

同部内北武布教所入社祭舊二十日說教新四の日鳴物願

さあ〳〵たづぬる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十一年六月二十九日

撫養部内周東支教會本月一日の夜炊事場窓より出火大變の處神樣の御守護にて治まり心得の爲め願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、一夜一つをりの事情たいへん事情のほのか一寸と云へは一寸、これはと云へば一つ事情治め事情、にん一つの理にある、あぶなき處〳〵あつまるといふはじゆんじよう理、どこそこにどういふ處ありた、かしこにどう云ふ

事ありた、この事情からみんなきゝわけてくれ、一人一つからねがひだすかず〳〵中にも一つ事情、重々さとしてしんじつあるかないか、ようきゝわけ、あぶなき處のがれるといふ理きゝわけ、ところ〴〵どこにどうであつた、かしこにどうであつた、事情からめん〳〵一つといふところからきゝわけ、めづらしい事情やおもふ〳〵、みなの處一つも萬も同じ事情とさとしおかう〳〵。

押して、後の擔任定まりてありませんが定める處願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はときといふ、しゆんと云ふ、時といふ旬といふ、これといふ一つ理治まるといふ、一つ理治まるといふ、それ〳〵治まりたなら何時にてもゆるそ〳〵。

明治三十一年六月二十九日

東部內加須出張所新築願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、尋ねる事情はこれゆるしおく、ゆるしおくがゆるしおくには、心だけゆるしおくのやで、心だけゆるしおいたら、いつ〳〵までたのしみさしづ、たのしみしんじつ心だけの理をゆるしおかう〳〵。

地ならし新七月十八日手斧始同十日上棟は木造次第願

さあ〳〵尋ねる事情はゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月二十九日

西田龜藏六月二十四日身上惱みより御願申せし處、身上速かなりたら尋ねに出よといふ事に付全快の上出頭致し願

さあ〳〵事情〳〵〳〵〳〵、さあ身上から事情尋ねる事情には一時さあ〳〵事情、身上〳〵どうならう〳〵おもふ、一つ身上の理、さあ尋ねる〳〵ならば一つ事情、身上あきらか事情すぐと尋ねでよとさとす、身上あきらか事情から尋ねるからさとす、一つふでにとつてゆつくりさとすによつて、又がてんがいかんといふはたづねかやせ、まあ一時の處どういふ事かういふ事わかりがある、わかりがない、これ〳〵筆にしつかりとつてしらしてくれ、どういふ事しらすなら、とうぶんふるき事情、一代から二代にかゝる一つの事情〳〵、まあめん〳〵はこの事情、このぢばい

つからいつからおもふ處、また他に事情もまあ〳〵おもふ處、何もしらんからおもふ、ようきゝわけ、事情にははるか事情もあれば、一時事情もある、一時事情から今日の日、ふるい處からとんと日々の處みればさうである、さあ〳〵道具である、一時の道具からなりたつものやない、又中になをす道具もつかふ道具もある、日々つかふ道具からきゝわけ、事情さとすから一時といはん〳〵、心にたのしみ〳〵、一代事情ある二代つぐやうなもの、としとれたものみな〳〵事情、みな〳〵事情からながめてとりもつてやれ〳〵、同じやうおもふてはならん〳〵、人間〳〵心でのぼりてはならん、これはさしづ理〳〵、さしづちがはん、さあ〳〵とりもつて〳〵、とりもたにやならん。

しばらくして

さあ〳〵一ことはじめかけてはなしかけたらいつの事やとおもふやない、一時もつてかうとなるものやない〳〵、ようきゝわけ、どうにもかうにもならん、ほつておけばいつまでとびいりの事ではならん、その理わからん、たゞ一時の心ばかしでは

ならん、つゞくが理〳〵、一代たつてつぐといふは、はやくとりもつてあつかふてやつてくれにやならん。

押して、年とれたと仰せ下さるはおことから運ぶ事であります哉、又納藏の事に付て運ばんならん事であります哉願

さあ〳〵年とれたものは、まあたのしみはやく事情〳〵わからんあひだに〳〵いさかなものが年々つもりてみよ、どのくらゐになるか、一時の理やなけにやならんといふは違ふてある、一時みのさはり〳〵といふ、もうどうであらうといふ處からことばきく、日がらたゝず、これ自由用といふ、ようきゝわけ、日がらきつてもさとす、これから日がらきつても十分理さとす、ようきゝわけくれ。

さあ〳〵兄弟〳〵中の理〳〵、なるほどなろまい〳〵なれど、渡世商賣といふ〳〵、一時にはよいやうにおもふ、一つかず〳〵中はなしさとす、さしづからかへにやならん事がある、かず〳〵商法中にせいでもよいものもある、ようきゝわけ、せいでもあたへならん事すれば理をそへてあとへかへる、おなじ兄弟一つ理をさと

しよう。

明治三十一年六月三十日

芦津部内稗島出張所開始祭舊七月二十四日願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、尋ねる事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

同所舊二十四日月次祭新四日十四日說教新一日加入式新十一日靈祭御紋附九つ鳴物願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月三十日

東部内手子林布教所設置願（擔任黑川釣藏）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳への願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はすぐと〳〵。

同部内三谷布教所設置願（擔任小阪長次郎）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵は、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

同部内鷲ノ宮布教所設置願（擔任小坂泰吉）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十一年六月三十日

東部内福總布教所說教日八日十八日二十八日入社式舊八日鳴物六つ御勤着願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情ねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

同部内柳澤布教所說教日新五日十五日二十五日入社式舊五日鳴物六つ御勤着の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情ねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

同部内金杉布教所說教新二日十二日二十二日入社式十二日鳴物六つ御勤着願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

同部内赤崎布教所說教日新一日十一日二十一日入社式舊二十一日鳴物御勤着願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

東部内川越支教會新築落成に付同町八百五十番地へ移轉願（來る八月二十日引越鎭座祭二十一日開筵式、提燈旗及信徒へ辨當出す願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十一年六月三十日

北部内三樹布教所移轉願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあぜん〳〵事情一つ一時事情もつて事情、それ〳〵心といふ、かうして治まり治まりといへば、治まりの理にゆるしおかう。

明治三十一年六月三十日

堺部内遠賀布教所移轉願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵事情一つ一時事情かうといふ、事情それ〳〵の理にゆるしおかう〳〵、さあゆるしおかう。

昭和四年八月廿二日印刷
昭和四年八月廿六日發行

著作權所有

編纂者　奈良縣山邊郡丹波市町大字三島二七一番地　天理教教義及史料集成部

發行者　奈良縣山邊郡丹波市町大字三島二七一番地　中山正善

印刷所　奈良縣山邊郡丹波市町大字川原城三〇九番地　天理教教廳印刷所

印刷者　奈良縣山邊郡丹波市町大字三島三一二番地　植田五郎

終